

目次

はじめに	2
------	---

第1章 基本的な方針

1-1 計画の目標	3
(1) 子どもたちが読書に親しむ環境の整備・充実	
(2) 家庭、学校、地域、関係機関等の連携の強化	
(3) 読書活動の普及・啓発	
1-2 計画の期間	3

第2章 具体的な取組

2-1 家庭における取組	4
(1) 本との出会いの場づくり	
(2) 読書に親しむ環境づくり	
2-2 幼稚園・保育園等における取組	5
(1) 幼稚園・保育園等の図書の実充	
(2) 園児に対する読書の啓発	
(3) 保護者・教諭に対する読書の啓発	
2-3 学校における取組	6
(1) 読書活動の実充・学校図書館の実充	
(2) 教職員研修の実充	
2-4 市立図書館における取組	7
(1) 年代に応じた資料やサービスの実充	
(2) おはなし会の実充	
(3) 図書館職員のスキルアップの推進	
(4) 図書館ボランティアの育成推進	
2-5 地域における取組	8～9
(1) 公民館や子育て支援施設などにおける読書活動の推進	
(2) ボランティアによる読書活動の推進	
(3) 障がいのある子どもたちへの読書活動の推進	
(4) 関係機関等の連携・協力の推進	
(5) 移動図書館の活用	

用語説明	10～12
------	-------

第3章 現況と今後の指標

3-1 荒尾市子どもの読書に関するアンケート結果	13～31
3-2 令和8年度末において期待される目標	32～33

はじめに

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、表現力を高め、感性や想像力を磨き、人とのコミュニケーションを豊かにするものにして、人生をよりいきいきと生きていく上で欠かすことができないものです。

しかし近年、子どもたちの読書離れ、文字離れによる思考力の低下が叫ばれております。

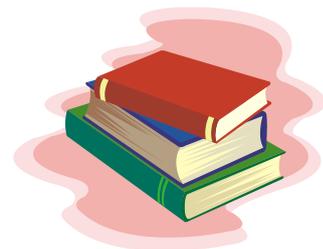
その背景には、映像文化・メディア等の発達による生活環境の大きな変化があり、またここ数年でもインターネットやスマートフォン等の情報機器の発達・普及に伴い子どもたちの読書離れがますます進んでいます。さらに地域や家庭での教育力の低下に伴い、乳幼児からの読書習慣の未形成等の問題も指摘されています。

国においては、子どもの読書活動の支援をするために、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」^{*1}が施行され、平成17年7月には、広く読書を勧めることを目的とした「文字・活字文化振興法」^{*2}が施行されました。

更には、2010年を「国民読書年」とすることが、平成21年6月の国会で決議されました。熊本県においても、平成16年に「肥後っ子いきいき読書プラン（熊本県子どもの読書活動推進計画）」^{*3}が策定され、子どもの読書活動の推進が図られています。

本市においては、平成22年4月に「第1次荒尾市子どもの読書活動推進計画」を、平成28年3月に「第2次荒尾市子どもの読書活動推進計画」を策定しております。今回「第3次荒尾市子どもの読書活動推進計画」を策定するにあたり、子どもの読書活動の推進を中心に、第1次ないし第2次計画の基本的な目的を引き継ぐこととします。またこれまでの取り組みの成果や課題を整理し、今後の読書活動を推進するための方針を明らかにします。

この計画に基づき、今後とも荒尾市の読書活動の推進を図ります。



第1章 基本的な方針

1-1 計画の目標

(1) 子どもたちが読書に親しむ環境の整備・充実

子どもたちが読書に親しみ、自主的に読書をするようになるためには、乳幼児期から読書に親しめる環境づくりに配慮することが必要です。家庭・学校・地域等において、子どもたちが積極的に読書をする意欲を高め、進んで読書を行う習慣を身に付けることができるよう、読書に親しめる環境の整備・充実に努めます。

(2) 家庭・学校・地域・関係機関等の連携の強化

子どもたちの自主的な読書活動を推進するためには、社会全体での取組が必要です。家庭・学校・地域・関係機関等が連携し、それぞれの特性を活かしながら相互協力し、共に充実した活動ができるよう情報や人材の交流、図書資源の有効活用に努めます。

(3) 読書活動の普及・啓発

子どもたちの自主的な読書活動を促すためには、子どもたちの身近にいる保護者など大人が読書活動に理解と関心を持つ必要があります。

読書の意義や重要性を理解することができるよう、読書活動に関する情報を積極的に提供するとともに、その必要性についての普及・啓発に努めます。

1-2 計画の期間

令和3年度からおおむね5か年(～令和7年度)の計画とし、必要に応じて計画の見直しを行うものとします。

第2章 具体的な取組

2-1 家庭における取組

子どもたちの読書習慣を形成する上で、家庭の果たす役割が非常に大きくなります。乳幼児期からの絵本の読み聞かせ等は、その後の読書に大きな影響を及ぼします。幼い子どもにとっての読書とは、保護者の子守歌や語りかけ、読み聞かせ等の言葉の体験から始まると言われます。また、本好きの保護者ほど子どもも読書家になると言われています。どうやって子どもを読書好きにさせるかは、親が本を読んでいる姿勢を見せる事のようにです。このような事実は、厚生労働省の調査から裏付けされています。

しかし、最近では、インターネットやスマートフォン等の情報機器の発達・普及に伴い、子ども達の読書離れが進んでいます。このような子どもたちを取り巻く生活環境の変化などにより、家庭で読書に親しむ機会は少なくなっています。

その対策としては、最も身近な存在である保護者等が読書の重要性を認識し、一緒に図書館に出かけたり、共に読書をしたりして、読書に対する興味や関心を引き出すよう積極的に子ども達に働きかけることが大切です。また、本を読むことで情報と知識が蓄積され、表現力や伝達力等の基礎能力の発達を促し、子ども達の情緒的な人格形成にも大きく作用します。ただし、子ども達は興味のない本を与えられたり、まわりから読書を強制されたりすると読書に対する興味を失って、読書離れを起こす場合もあります。成果を早急に求めずに、子ども達の成長を温かく見守ることが重要です。

(1) 本との出会いの場づくり

赤ちゃんへの子守唄代わりに絵本を一冊読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、図書館へ出向いたりすること等により、子どもは本の楽しさや読書の喜びを感じることができます。

読書を通じて親子のきずなを深めるとともに、子どもたちと本との出会いの場である家庭での読書活動の推進に努めます。

(2) 読書に親しむ環境づくり

福祉課や保健センターなどと連携し、乳幼児健診等の機会を利用した、保護者が読書に親しみ家庭で読書の時間を共有する取組を、乳幼児期段階から推進します。

2-2 幼稚園・保育園等における取組

(1) 幼稚園・保育園等の図書の充実

子どもたちの、ことばや絵本などへの興味・関心を育み、幼児期の情操の育成、思考力の育成等に大きな役割を果たすとともに将来的な読書活動や図書館利用へ結び付けるため、子どもたちが、気軽に手に取って読みたくなるような良質な内容の図書(質のいい絵本や紙芝居など)の充実を働きかけます。

(2) 園児に対する読書の啓発

子どもたちの年齢、発達段階にあった絵本の読み聞かせや紙芝居などは、特に乳幼児の心を育むと同時に、子どもに安らぎを与えるものとなっています。

よって、幼稚園・保育園等においても、子どもたちが絵本や物語に親しむ機会を確保する観点から、図書館等の職員を派遣し、おはなし会の実施などを積極的に行います。

(3) 保護者・教諭・保育士に対する読書の啓発

乳幼児期に読書の楽しさを知ることができるよう、幼稚園・保育園等で行っている子育て支援活動の中でも、読み聞かせ等推進するとともに、保護者へ読書の素晴らしさを伝え、更には幼稚園・保育園等の教諭・保育士のスキルアップを図るため、図書館等で行う講演会への積極的な参加を促すなどして、子どもへの読み聞かせ等の大切さや意義を広く普及することを図ります。



荒尾市立図書館



2-3 学校における取組

学校では、読書活動を教育活動の中に適切に位置付け、読書時間の確保や読書指導の工夫・充実を図ること、また、学校図書館を効果的に活用することが必要となっています。

現在、市内小中学校では、朝に読書を行う時間をもうけており、児童生徒たちに読書をする機会を与えています。

また、小中学校の図書室では、司書が配置され、図書室等環境の充実が図られてきています。蔵書に関しても、徐々に新刊等の充実を行っており、今後も本に親しむ態度を育成し読書習慣を身につけさせる必要があります。

市内の全小中学校・高校を挙げ、みんなで読書を楽しむ取組の充実を図ります。

(1) 読書活動の充実・学校図書館の充実

学校図書館は児童・生徒の自由な読書活動の場として、学習に対する興味・関心を呼び起こし、豊かな心を育む機能と、調べ学習のための資料提供の機能があります。国の「新学校図書館図書整備5か年計画」*4の趣旨に基づき、計画的な図書の充実に努めます。

更に、学校図書館と市立図書館との連携を促進し、蔵書やビデオ教材等、情報資料の貸出しを含め、児童生徒の学習のみならず、地域の人たちへのサービス提供に努めます。

(2) 教職員研修の充実

学校図書館は、児童生徒にとって読書の楽しみを知り、本を通して自由に知識を得ることができる場所です。また、司書教諭や学校図書館司書を中心とした教職員は、児童生徒の読書活動を積極的に支援していくことが求められると同時に、本の選定、本に関する相談など広範な知識が必要となります。

よって、読書活動の重要性や司書教諭の役割などについて、市立図書館司書を含めた広範囲な研修会の開催の他、図書館等が発行している定期行物等*5の配布に努めます。

2-4 市立図書館における取組

(1) 年代に応じた資料やサービスの充実

乳幼児から青少年までの読書の推進を図るため、その年代に応じた興味や関心、あるいは学習意欲を高める図書をはじめ、絵本や紙芝居などの資料の充実を図ります。乳幼児期からことばと心を育むために「ブックスタート」^{*6}を実施し、赤ちゃんと保護者が一緒に絵本を開く楽しい時間を過ごし、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動を行います。

また、中・高校生を中心とした10代の青少年コーナーなどを設置し、10代向けの良質な読み物だけではなく、興味、関心に配慮した読み物や学校生活を充実させるための資料及び将来を考えるための参考となる資料などの充実を図ります。

(2) イベント等の充実

市立図書館では、ファミリー向けのイベント(お話し会や人形劇など)や学習イベント(夏休み自由研究への支援等)などの子どもが読書活動に親しむきっかけづくりのための体制強化を行い、啓発及び内容等の一層の充実を図ります。

(3) 図書館職員のスキルアップの推進

子どもたちや保護者が図書について気軽に相談でき、気軽に図書に親しむことができる環境を整備するため、図書館司書をはじめとする図書館職員の専門的知識や接客サービスの向上を図るとともに、職員同士での研修会の実施のほか、各種研修会への積極的な参加を促進します。

(4) 図書館ボランティアの育成推進

市立図書館では、平成19年度より図書館ボランティアを募集し、おはなし会などでの読みきかせに協力を頂いています。今後は、小中学校の読みきかせボランティアなどとも連携を図り、市立図書館内外でのおはなし会の充実など、子どもたちが気軽に本に親しめるような環境づくりを推進します。

また中高生の本離れを防ぐため、ティーンズボランティアの発掘・育成も今後検討していきます。

(6) 近隣市町村との相互利用の活用

平成26年4月から、荒尾市・大牟田市・南関町・長洲町に住所を要する方は、2市2町内の図書館を相互利用出来るようになりました。相互利用の活用により、多くの蔵書に触れ合うことの出来る機会を増やし、読書の推進を図ります。

(7) 「新しい生活様式」に対する環境整備

新型コロナウイルス感染症防止のため、「新しい生活様式」にも配慮した環境の整備を進めていきます。

時間がないなどの理由で来館することができない方々においても、非接触で手軽に書籍を借りることができる「電子書籍」の導入など、いつでもどこでも本に触れ合える環境づくりを目指していきます。

2-5 地域における取組

本市では、小学校ごとに、子どもたちに本の面白さを伝えるための活動をしているよみきかせボランティアグループがあります。しかし、活動をしている会員は減り、なかなか活動出来にくい状況になっているようです。今後、よみきかせグループの方々が活動しやすいシステムを構築していくことが必要となってきます。

(1) 公民館や子育て支援施設などにおける読書活動の推進

社会の変化に伴い、核家族化の進行や共働き家庭の増加など、家族の形態も多様化してきており、このような様々な家庭環境に対応するため、中央公民館、学童保育所、放課後子ども教室等において、各種子育て支援事業が行われております。

そこで、子どもたちが日常的に利用するそれらの施設の図書コーナーの充実を図るとともに、ボランティア等の協力を得ながら読み聞かせなどを実施します。

(2) ボランティアによる読書活動の推進

本市には、小学校ごとに、子どもたちに本の面白さを伝えるため活動している読み聞かせボランティアグループがあります。社会全体で子どもの読書活動を推進するうえで、ボランティアの活躍は重要であり、その活動には大きな期待が寄せられています。

そこで、学校や子育て支援施設などでの読み聞かせの要望に対応するため、ボランティアの拡充を図るとともに、ボランティア団体間のネットワークを構築していきます。

(3) 障がいのある子どもたちへの読書活動の推進

障がいのある子どもたちに対しては、子どもたち一人ひとりの発達段階や障がいの程度、生活経験等に応じ、適切な図書の選定と読書活動の工夫、読書環境の整備を図る必要があります。

また、障がいのある子どもにも等しく読書の機会が与えられるように、学校、地域、市立図書館等が連携し、点字絵本、録音資料、映像資料、大活字本等の収集を図っていきます。

(4) 関係機関等の連携・協力の推進

子どもの読書活動を推進するためには、家庭、幼稚園、保育園等、学校、市立図書館、行政、地域社会が一体となった取組が必要であり、関係機関・団体等の相互の連携・協力が必要です。

そこで、「広報あらお」や市のホームページ、各団体機関紙などの媒体を通じて、読み聞かせなどの大切さを保護者に啓発するとともに、関係機関・団体等の相互の連携・協力の重要性について理解を図っていきます。

各施設間の、絵本や紙芝居などの相互貸出しについても積極的に行い、家庭での絵本等の購入も働きかけていきます。

また、学校図書館と市立図書館のネットワーク化による情報の共有化をはじめ、県立図書館との相互貸借※7の拡充など、多様な読書活動推進体制の整備により、子どもたちが一層読書に親しめる環境の整備に努めます。



童話発表大会

【用語説明】

※1 「子どもの読書活動の推進に関する法律」

この法律は平成13年12月に施行され、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、子どもの健やかな成長に資することを目的とします。子どもの読書活動推進計画もこの法律によって義務付けられています。

※2 「文字・活字文化振興法」

この法律は平成17年2月に施行され、文字・活字文化が長い人類の歴史の中で蓄積してきた知識や知恵の継承及び向上、加えて豊かな人間性を育ててきたことに欠かせないものであることから、文字・活字文化の振興に関する施策の総合的な推進を図り、知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現を目的としています。

※3 「肥後っ子いきいき読書プラン（熊本県子どもの読書活動推進計画）」

熊本県で、平成16年に策定された子どもの読書活動推進計画の名称であり、平成26年度に第三次推進計画が策定されています。

※4 「新学校図書館図書整備5か年計画」

文部科学省において、平成19年度から実施されていた「学校図書館図書整備5か年計画」に引き続いて平成24年度から実施されている学校図書館図書の整備計画であり、5年間で1,000億円の措置を講じるとされています。今回は、全国の公立の義務教育諸学校に新聞を配備する経費と、全国の公立の小中学校に学校図書館担当職員を配備する経費とされており、新聞配備と学校司書の配置に関する措置は今回初めてとられるものです。

※5 図書館等が発行している定期刊行物等

現在、市立図書館において作成している子どもの読書推進に役立つ発行物として、「かもめ通信」や「ヤングアダルト通信『Hope』」などがあります。

図書館だより「かもめ通信」……………	図書館情報や新刊情報を掲載した発行物(毎月)
学校向け図書館だより……………	学校教諭に向けた図書案内(年4回)
小学校新入生向け図書館案内……………	小学校新入生を対象に配布する図書館利用案内
中学・高校図書館案内ポスター……………	中学・高校生に向けた図書館利用案内ポスター
ヤングアダルト通信「Hope」……………	中学・高校生に向けた読書案内(年1～2回)

※6 ブックスタート

母子保健事業などの機会に、「絵本」と「赤ちゃんと絵本を楽しむ体験」をプレゼントする活動。赤ちゃんと保護者が、絵本を介して、心ふれあう時間を持つきっかけを届けます。

荒尾市においては、平成24年8月より、荒尾市保健センターが行う母子保健事業において、1歳6か月児健診受診者を対象に実施しています。

※7 「相互貸借」

図書館の相互協力の一つで、利用者の求めに応じて、図書館同士で資料の貸借をすることです。



小中高生アンケート調査結果

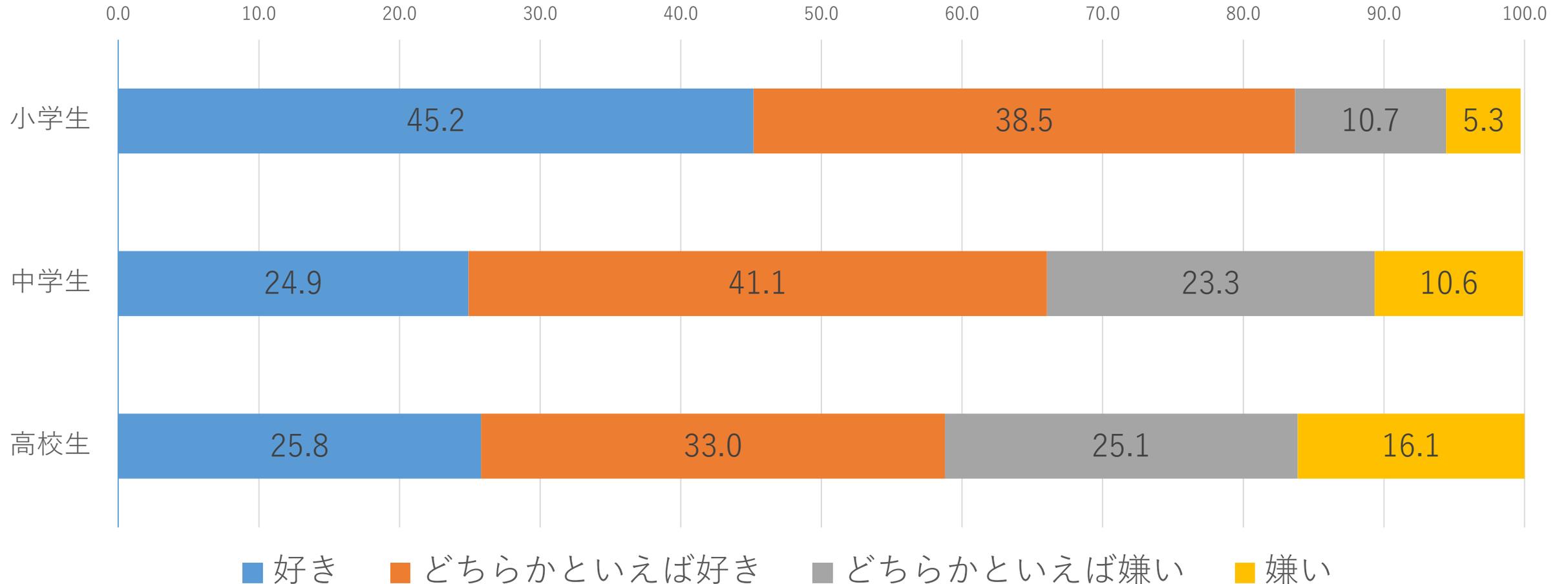
調査校として、市内全小中高校を対象に実施した。
(令和2年2月実施)

回答数： 4,452人(93.6%回答)

【小学生2,588人(94.4%)、中学生1,088人(90.7%)、高校生776人(95%)】

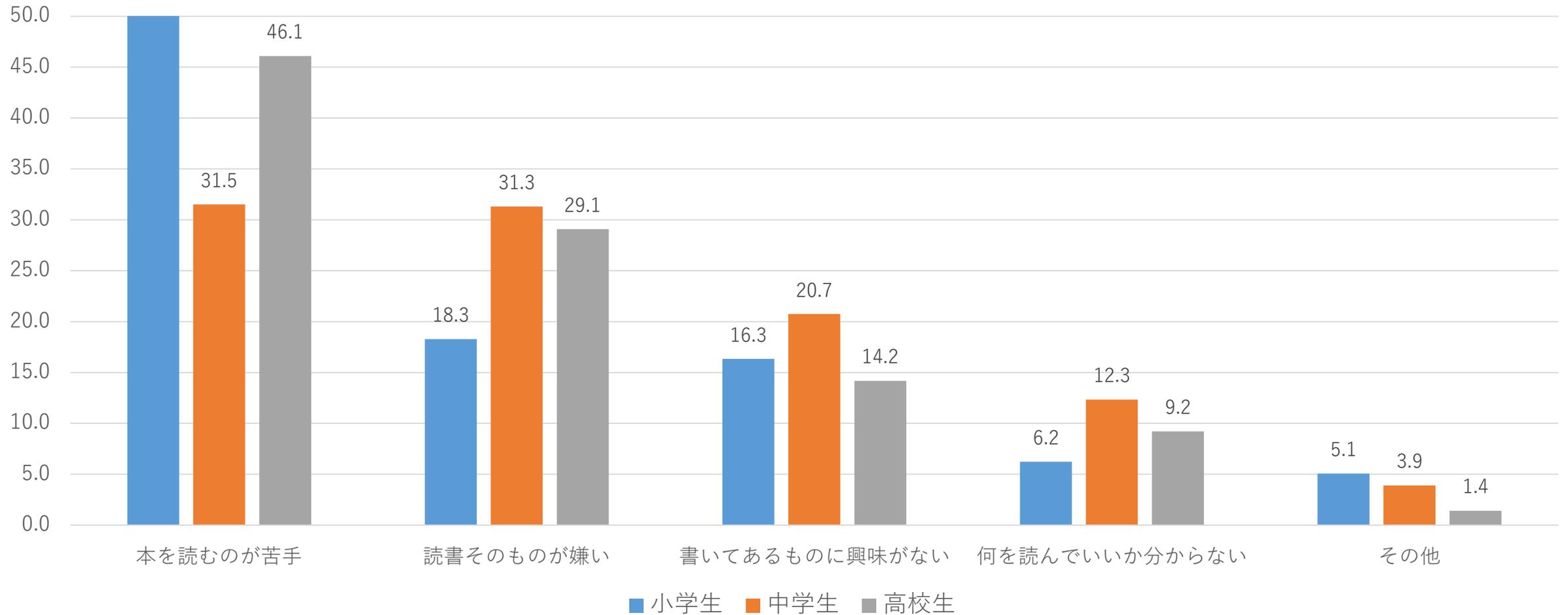
「子どもの読書活動アンケート」 読書活動への関心・意欲

問1 本を読むのが好きですか。



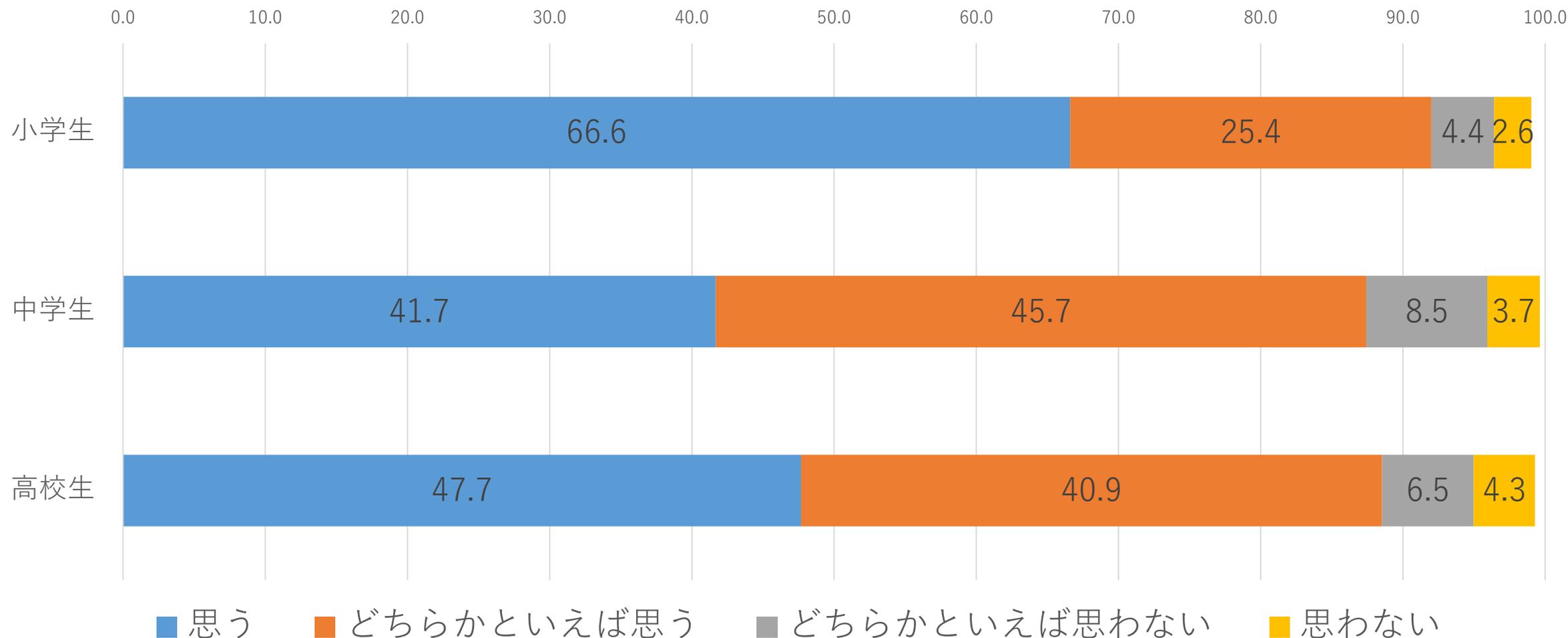
「子どもの読書活動アンケート」 読書が嫌いな理由

問2 あなたはなぜ本を読むのが嫌いなのですか？



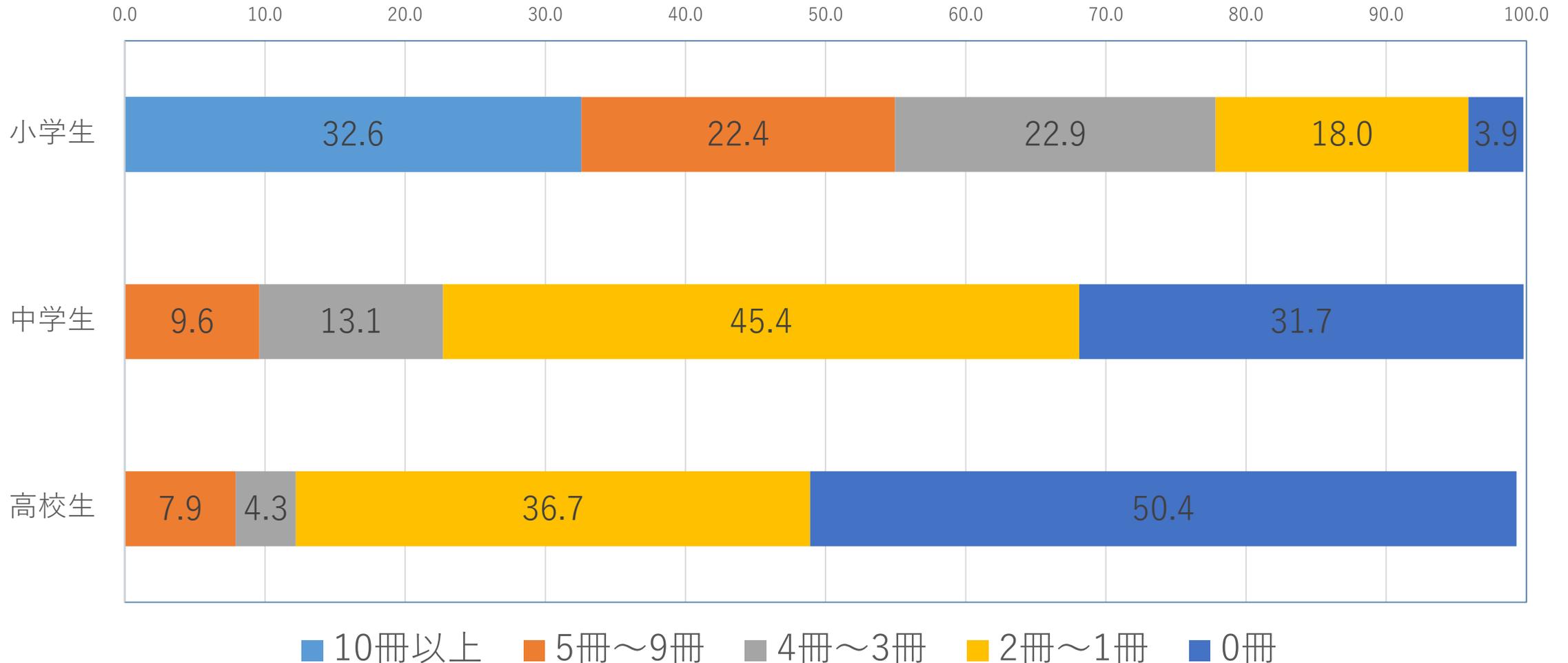
「子どもの読書活動アンケート」 本の大切さ

問3 本を読むことは大事だと思いますか。



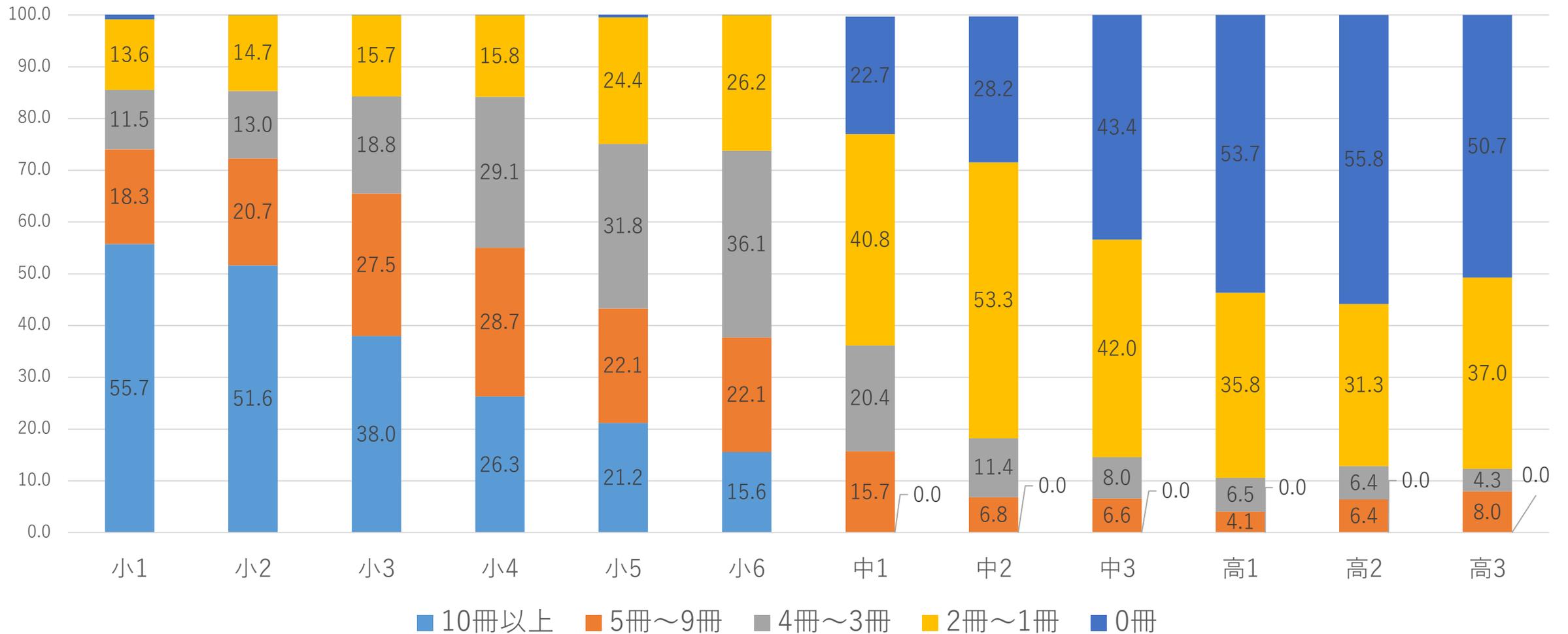
「子どもの読書活動アンケート」 不読率と多読率の状況

問4 1か月に何冊くらい本を読みますか。



「子どもの読書活動アンケート」 不読率と多読率の推移

問4 1か月に何冊くらい本を読みますか。(学年別)



「子どもの読書活動アンケート」 読書率（比較）

1か月に1冊以上読む（読書率）児童・生徒の割合

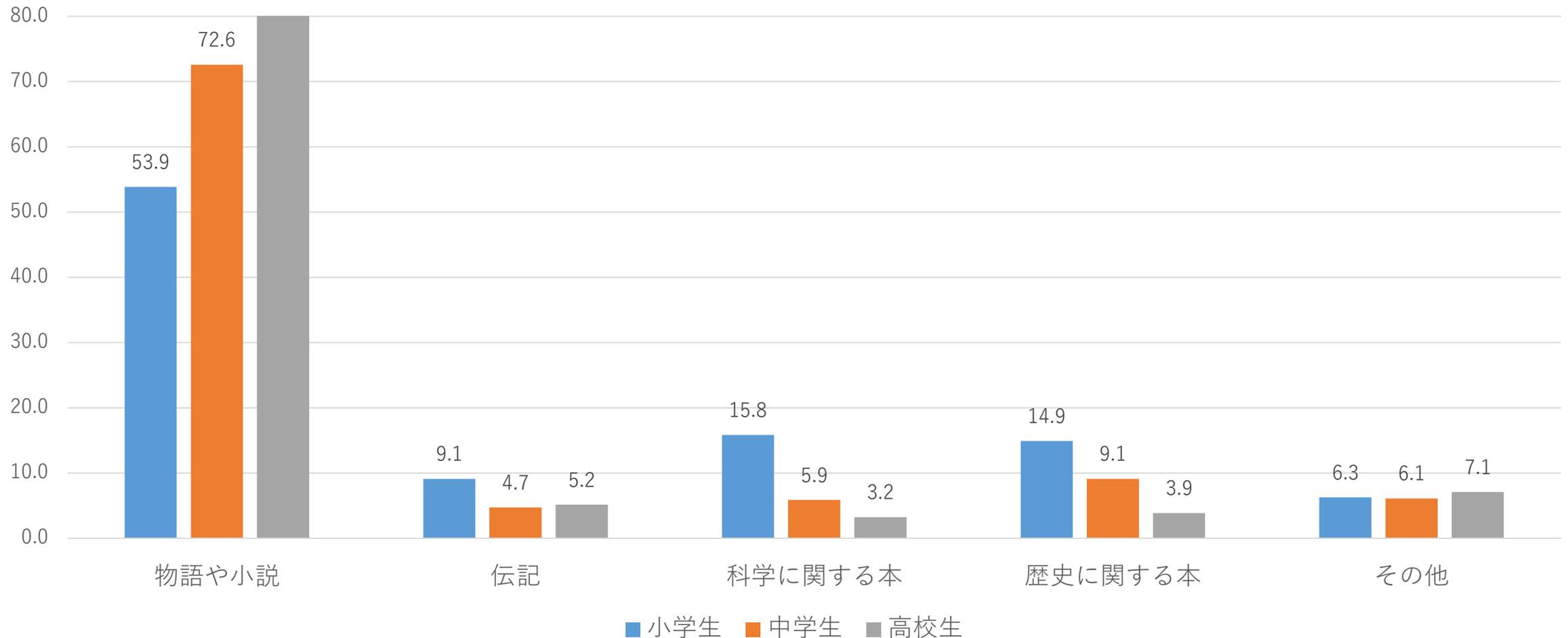
荒尾市 小学生95.9% 中学生68.1% 高校生48.9%

H26年調査時 小学生95% 中学生79% 高校生61%

全国平均	小学生93.2%	中学生87.5%	高校生44.7%
県平均	小学生97.6%	中学生88.2%	高校生83.9%

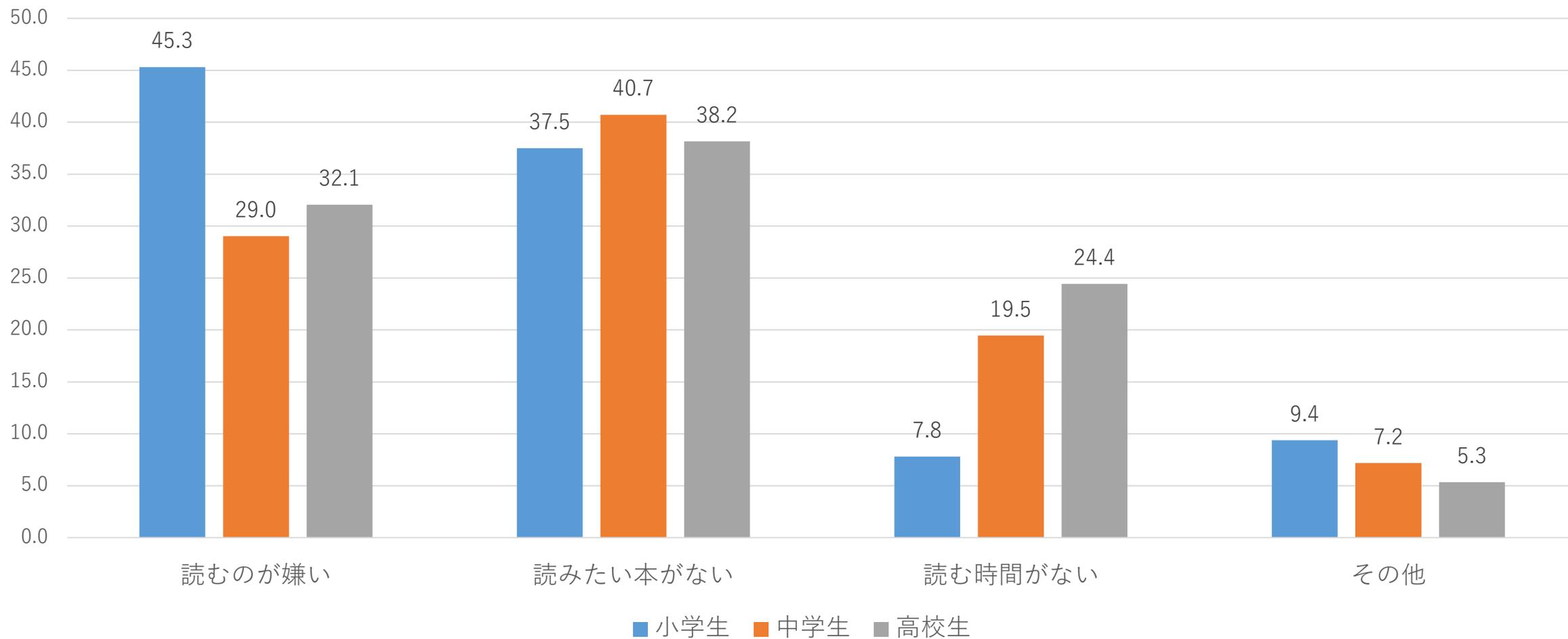
「子どもの読書活動アンケート」 本を読む種類

問5 あなたは、どんな本をよく読みますか？



「子どもの読書活動アンケート」 本を読まない理由

問5 あなたは、なぜ本を読まないのですか？



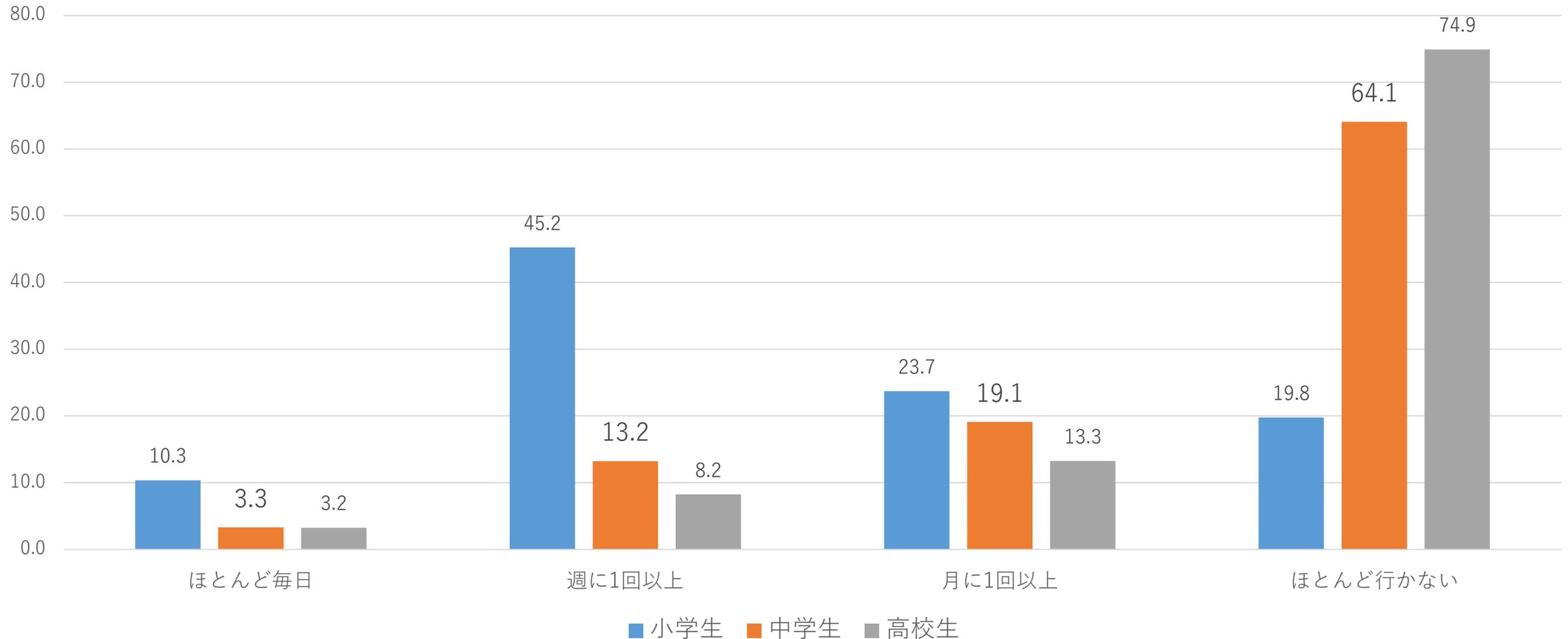
問6 どんな図鑑に興味がありますか？（自由回答）

※主な回答

- ・ 動物・生き物（恐竜、昆虫含む）の図鑑
- ・ 花・植物の図鑑
- ・ 宇宙・星座の図鑑
- ・ 人体・科学関連の図鑑

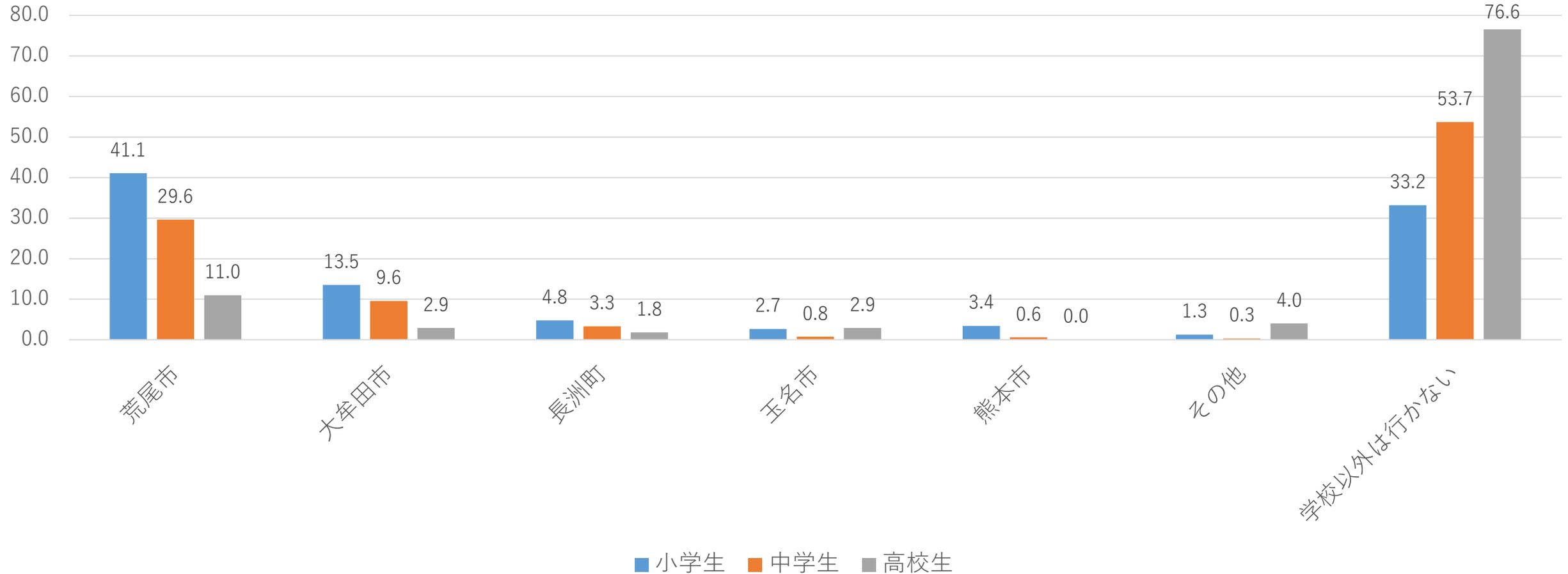
「子どもの読書活動アンケート」 学校図書館の頻度（機会）

問7 普段どのくらい学校の図書館に行っていますか？



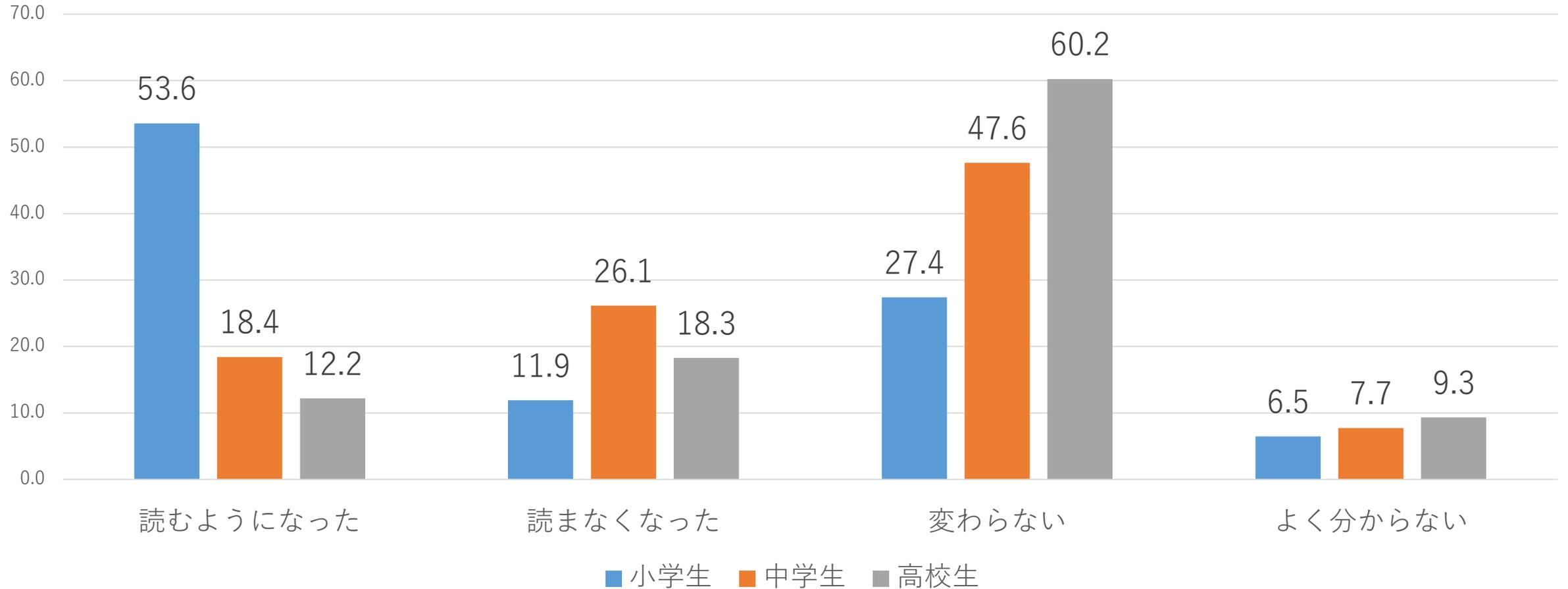
「子どもの読書活動アンケート」 本を読む場所（機会）

問8 学校以外の街の図書館に行ってますか？



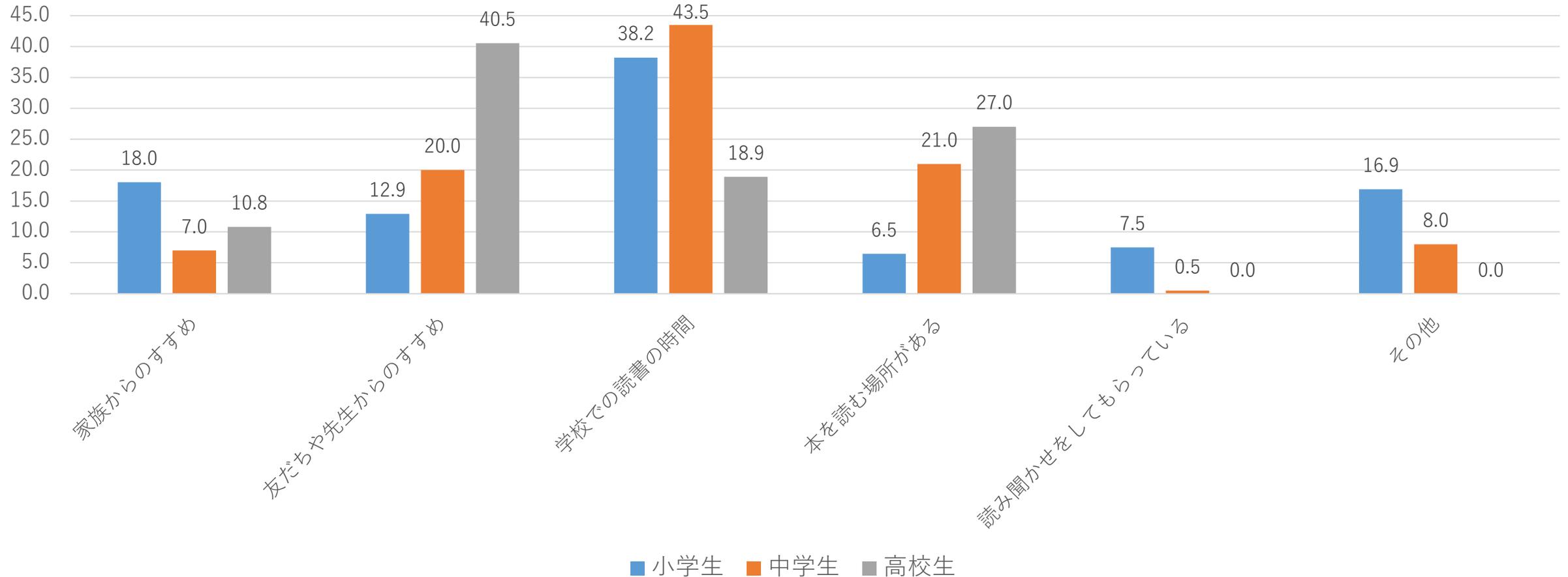
「子どもの読書活動アンケート」 本を読む頻度

問9 1年前と比べて本を読むようになりましたか。



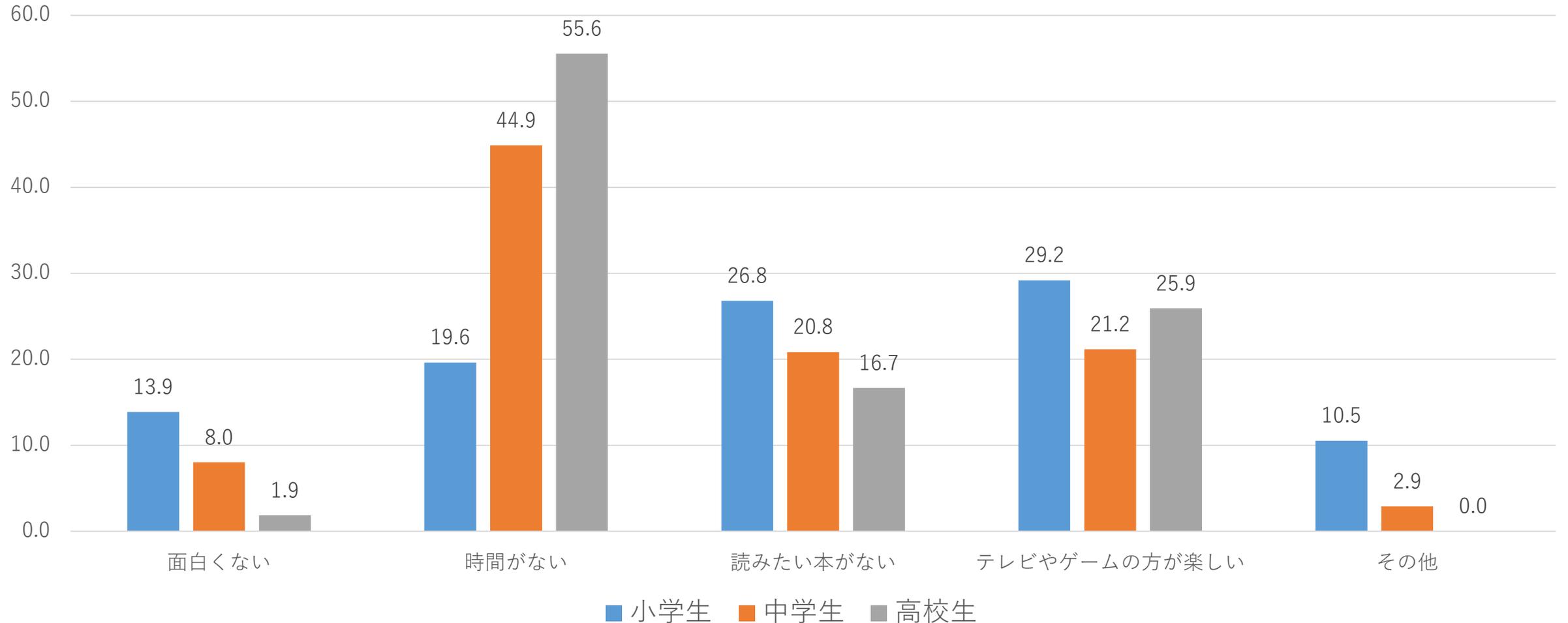
「子どもの読書活動アンケート」 本を読むようになった理由

問10（1年前と比べて）本を読むようになったきっかけは？



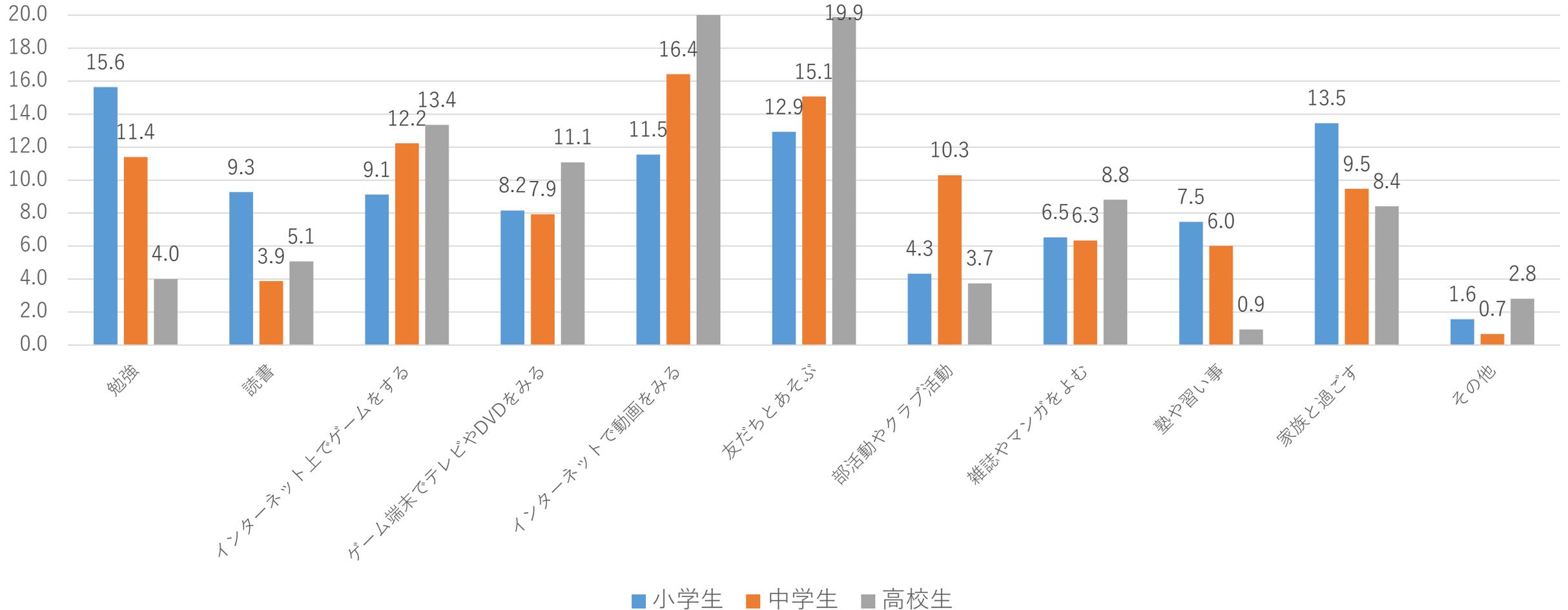
「子どもの読書活動アンケート」 本を読まなくなった理由

問11（1年前と比べて）本を読まなくなった理由は？



「子どもの読書活動アンケート」 普段の過ごし方

問12 学校以外の時間（休みの日など）、どんなことをしますか？



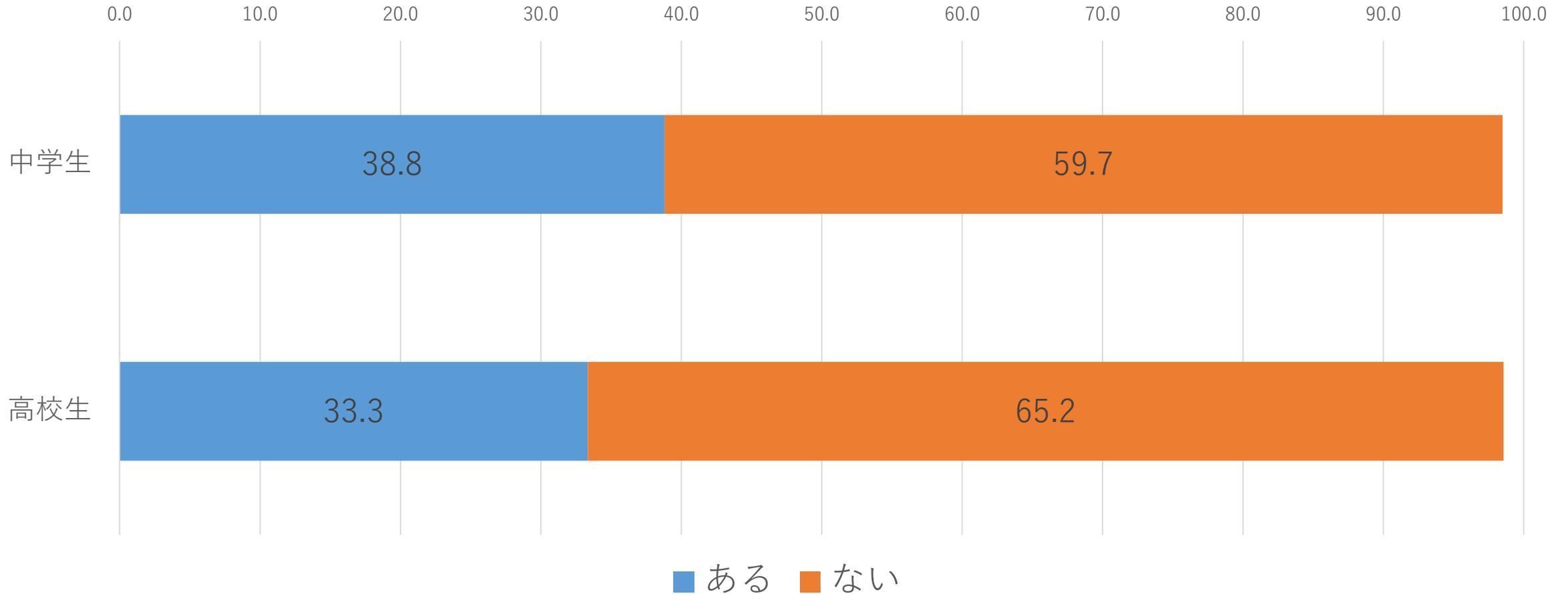
「子どもの読書活動アンケート」 本を読む方法

**問13 どうしたらみんなが本を読むようになると思いますか。
(自由回答)**

- ・ おすすめ本を友だちと紹介し合う。
- ・ 自分の好きなジャンルや映画や漫画の小説版、本が苦手な人用に絵が多い本から読んでみる。
- ・ 読書（本）の良さ、大切さや面白さなどを伝える。
- ・ 本を読んだら“宿題なし”などの特典を与える。
- ・ 児童・生徒に読みたい本アンケートを取り、ランキング1位の本を学校図書館に置く。

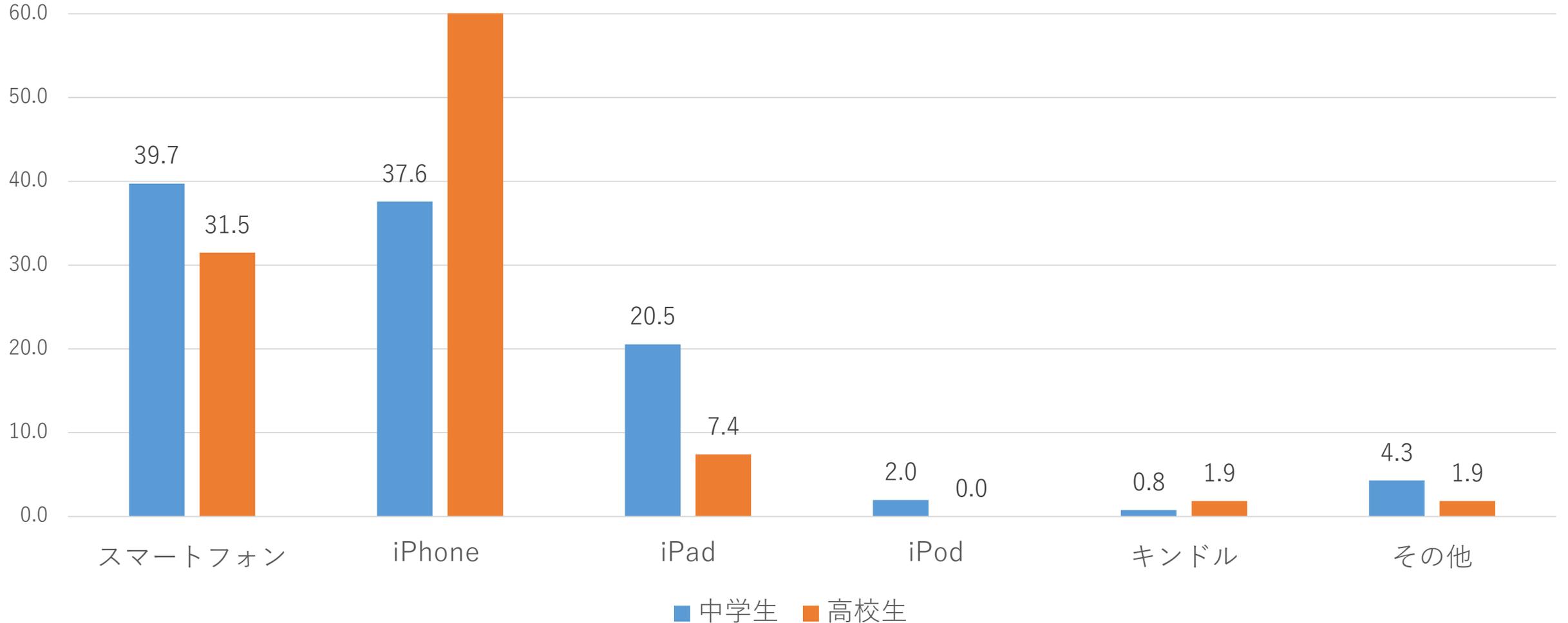
「子どもの読書活動アンケート」 電子書籍の体験の有無

問A 電子書籍を読んだことはありますか？



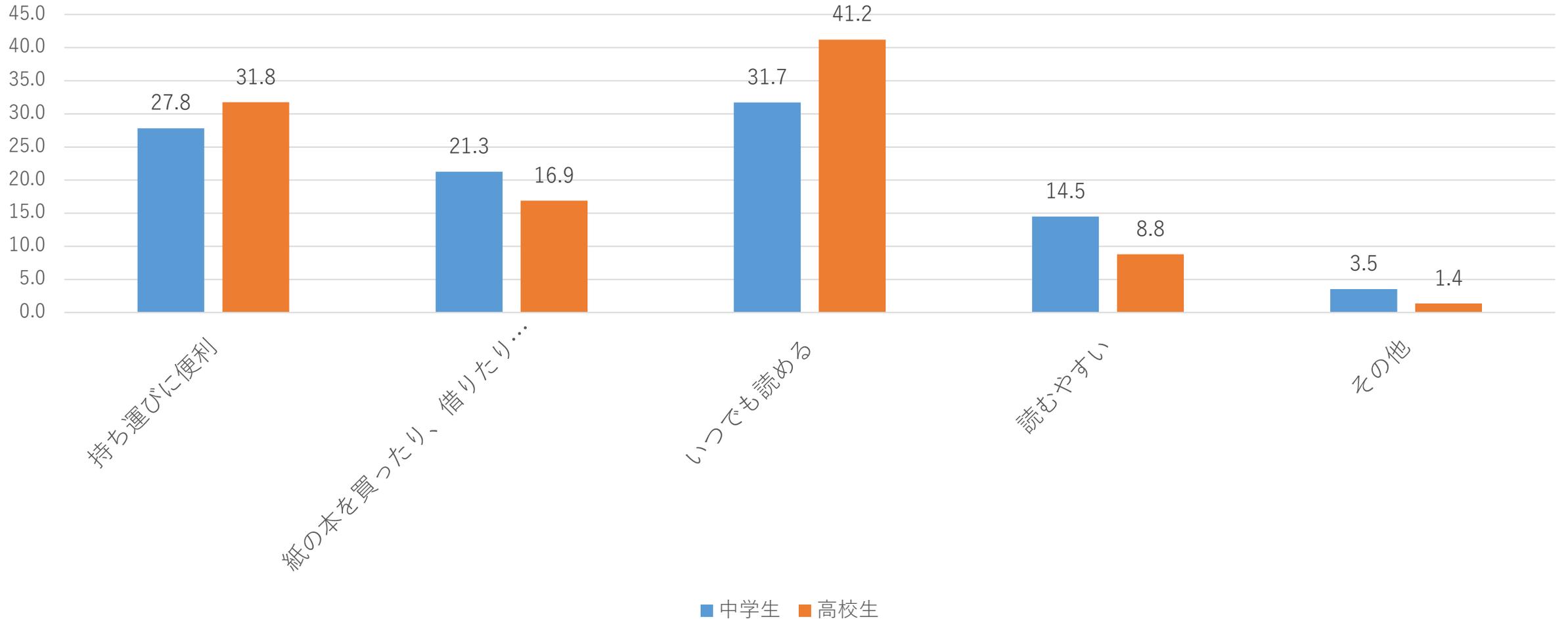
「子どもの読書活動アンケート」 電子書籍の書類

問B どの種類を利用していますか。



「子どもの読書活動アンケート」 電子書籍の印象

問C (電子書籍を) 活用してみてもうどう思いますか？





保護者アンケート調査結果

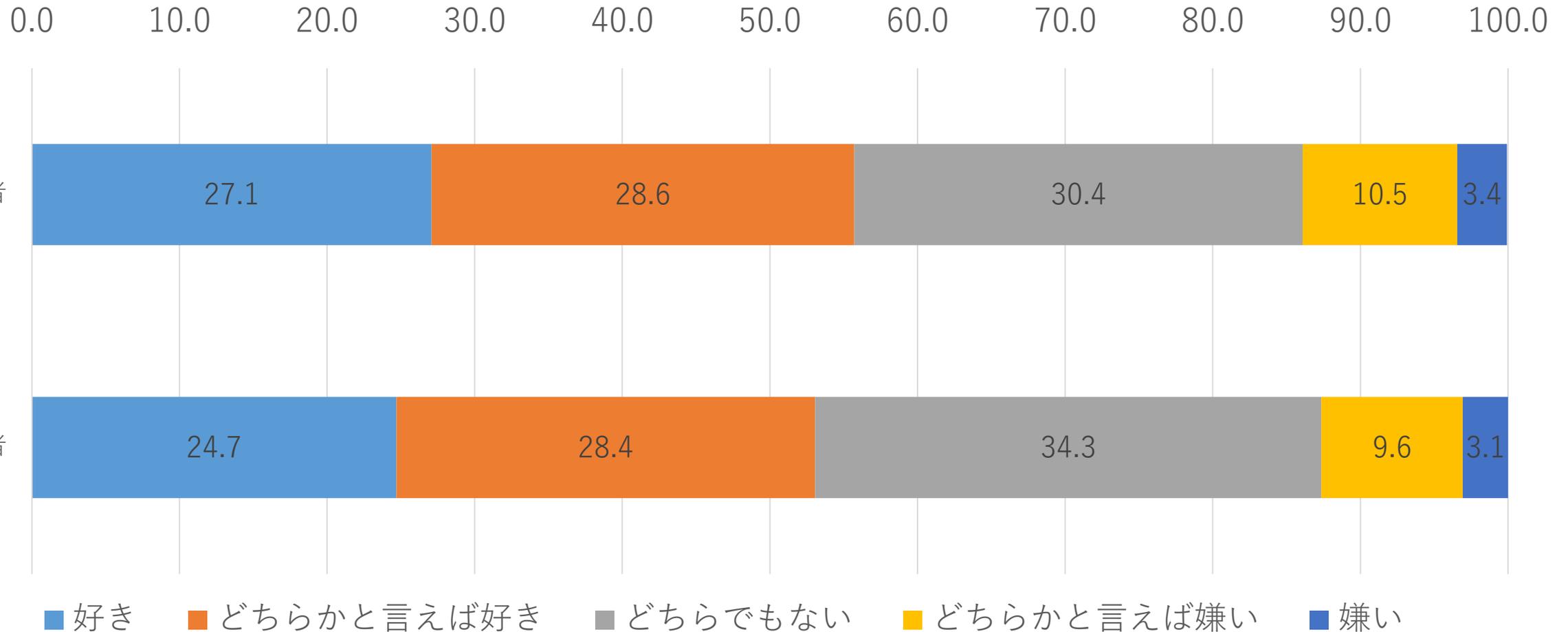
市内全小中学校に通う生徒の保護者を対象に実施した。
(令和2年2月実施)

回答数： 1,828人(64.3%回答)

【小学生の保護者1,337人(77.8%)、中学生の保護者491人(43.7%)】

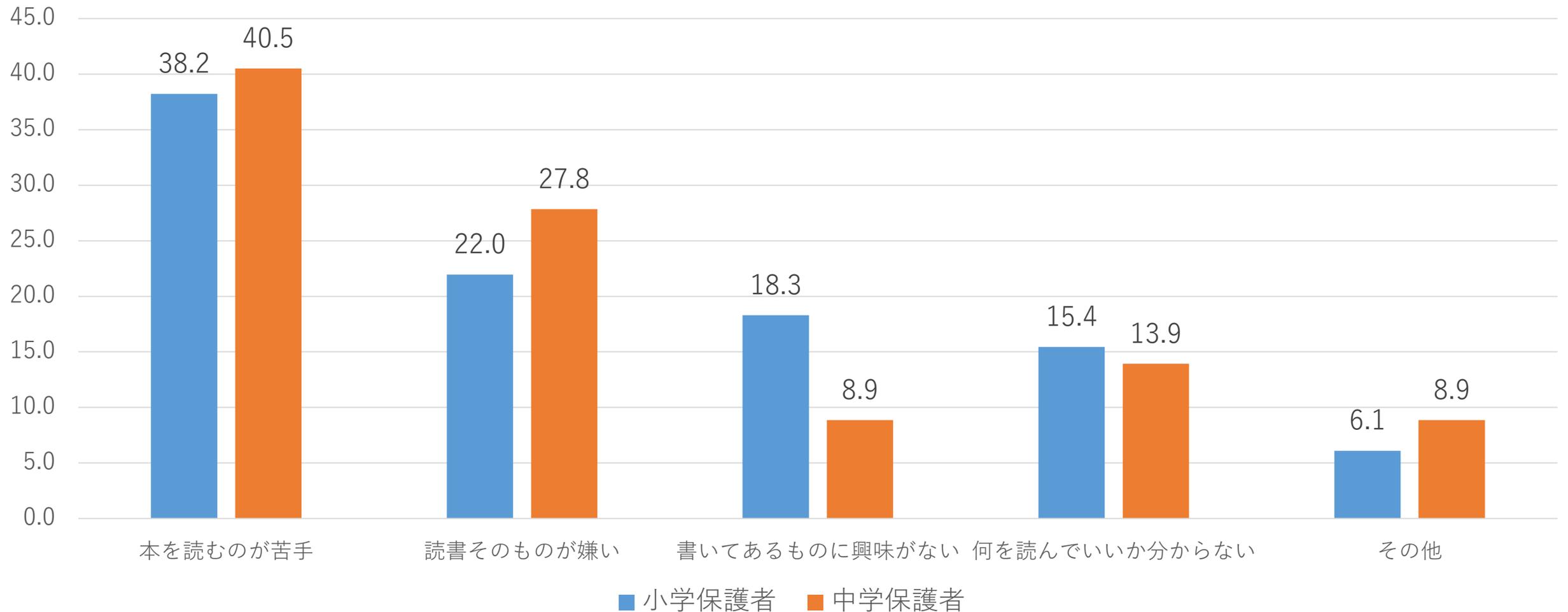
「子どもの読書活動アンケート」 読書活動への関心・意欲

問1 本を読むのが好きですか。



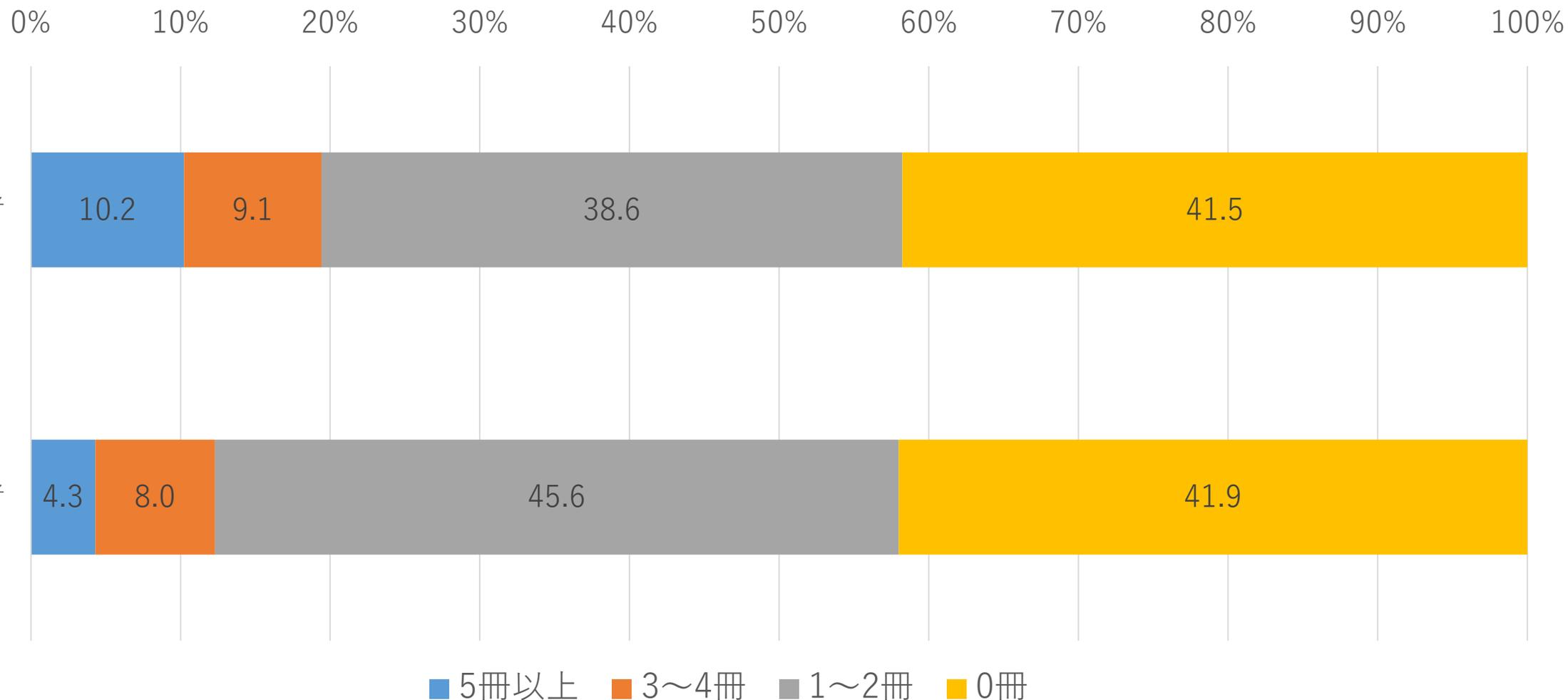
「子どもの読書活動アンケート」 読書が嫌いな理由

問2 あなたはなぜ本を読むのが嫌いなのですか？



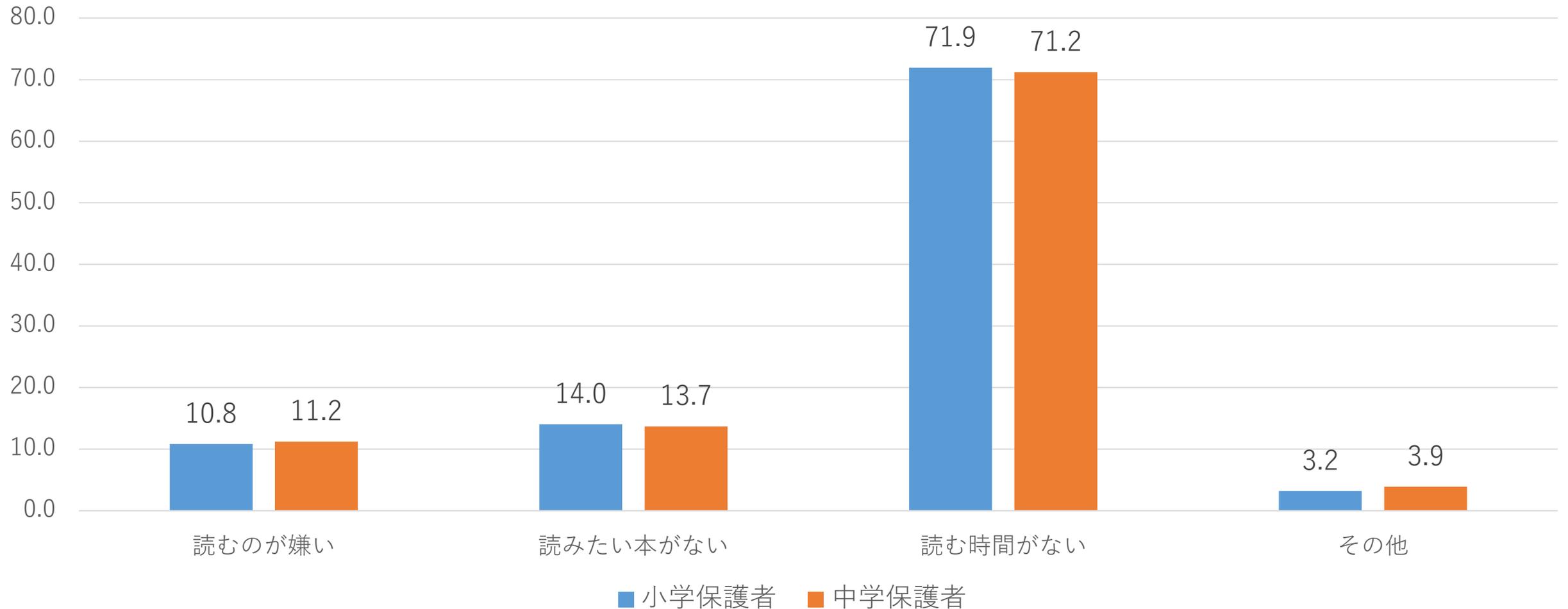
「子どもの読書活動アンケート」 不読率と多読率の状況

問3 1か月に何冊くらい本を読みますか。



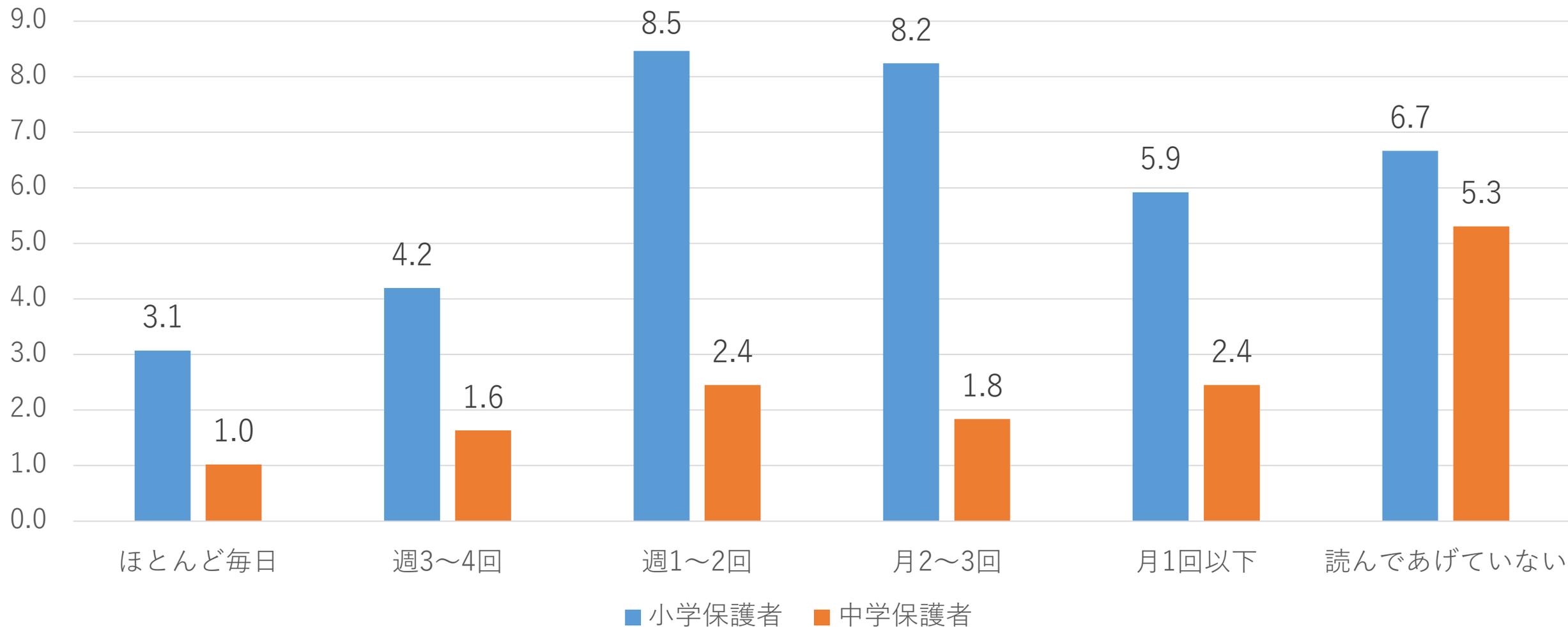
「子どもの読書活動アンケート」 本を読まない理由

問4 あなたは、なぜ本を読まないのですか？



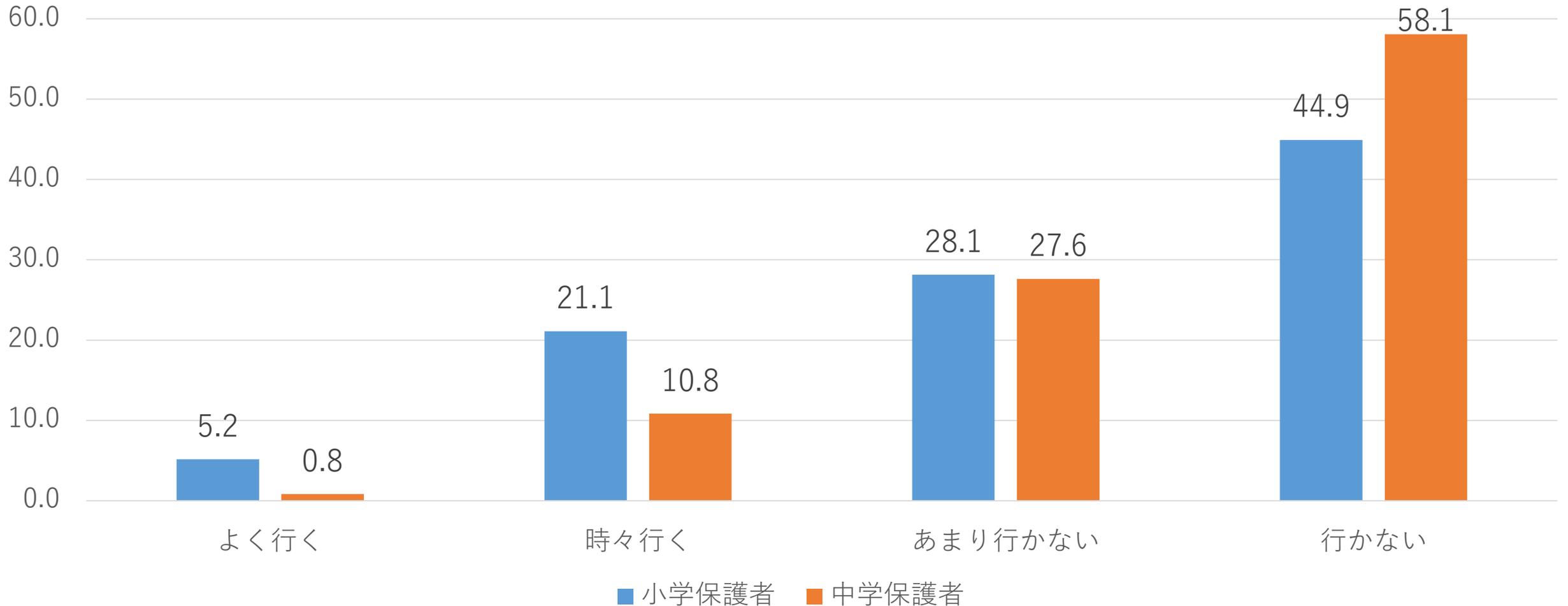
「子どもの読書活動アンケート」 読み聞かせ関係

問5 子どもに絵本の読み聞かせを行っていますか？



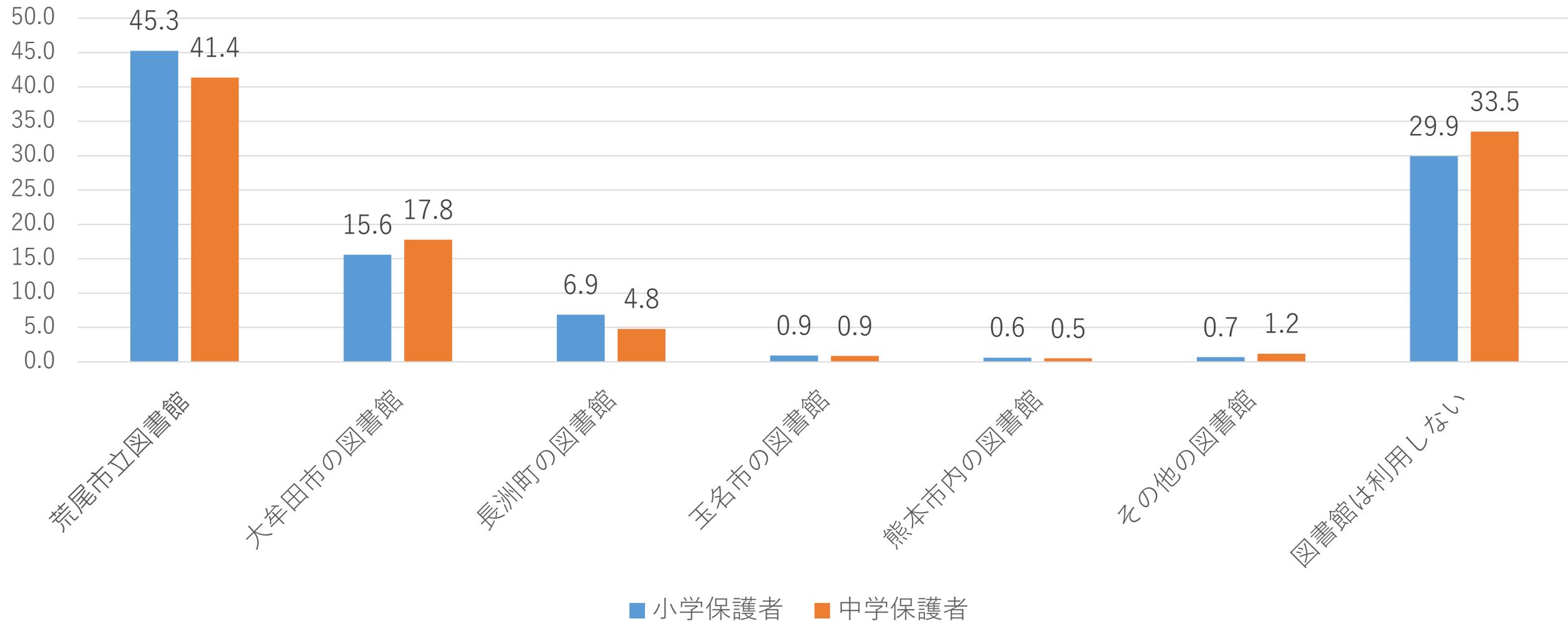
「子どもの読書活動アンケート」 図書館利用の頻度（機会）

問6 （子どもと一緒に）荒尾市の図書館を利用していますか？



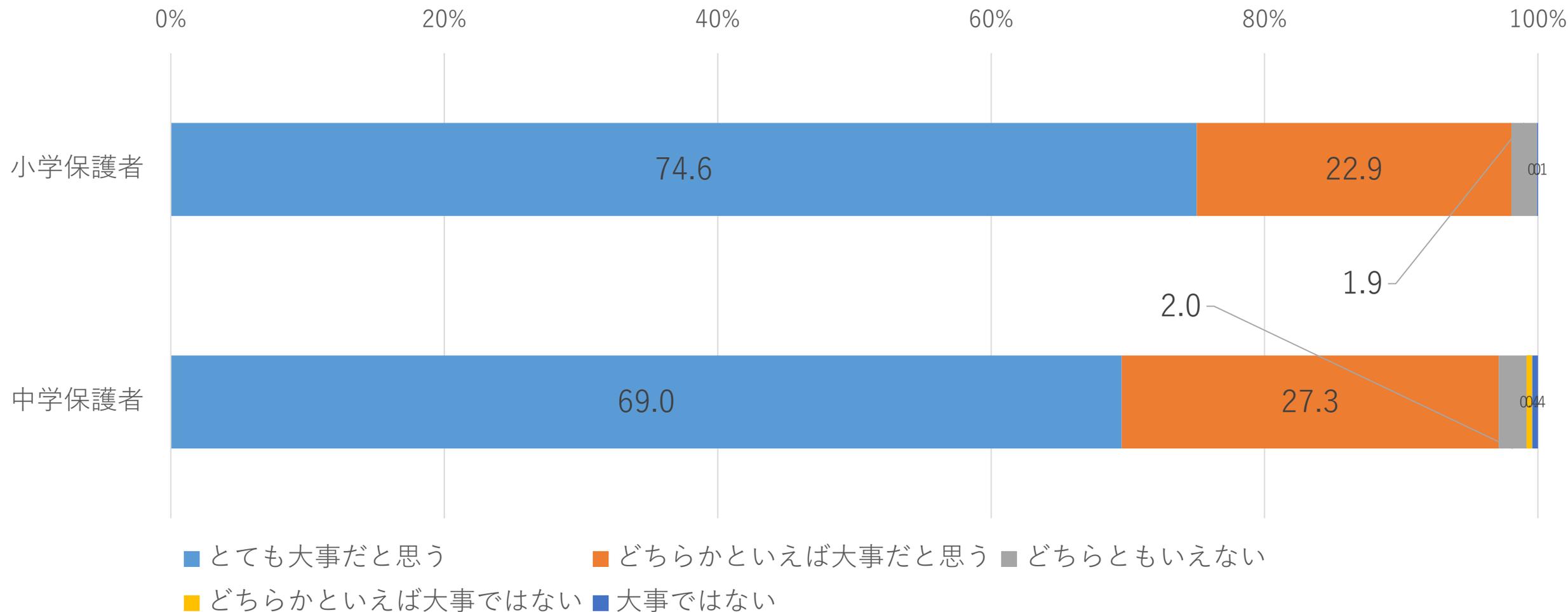
「子どもの読書活動アンケート」 本を読む場所（機会）

問7 街の図書館に行ってますか？



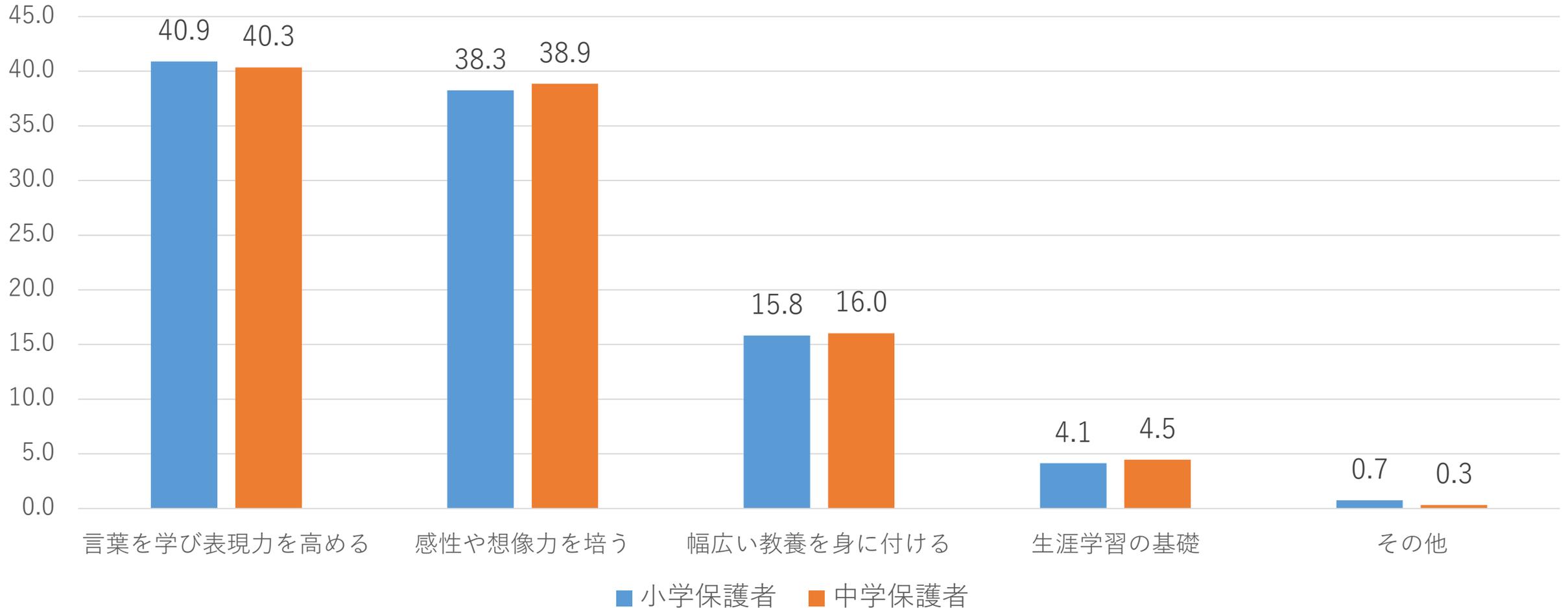
「子どもの読書活動アンケート」 本の大切さ

問8 子どもが読書することは大事だと思いますか。



「子どもの読書活動アンケート」 本の大切さ

問9 読書が大事だと思う理由は何ですか？



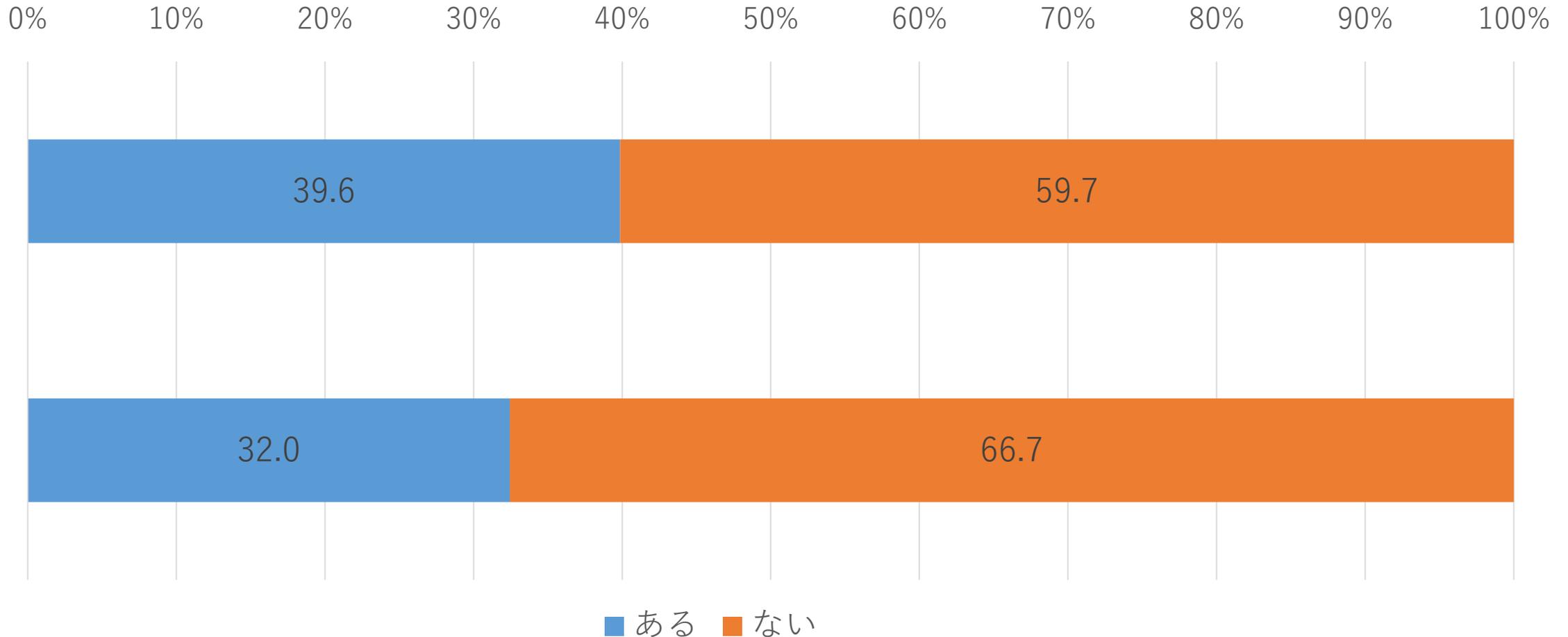
「子どもの読書活動アンケート」 本を読む方法

問10 どうしたら子どもがもっと本を読むようになると思いますか。また、期待される効果は？ (自由回答)

- ・ 小さなころからの読み聞かせ
- ・ 興味があるものから読み、本を読む習慣を身に付けさせる
- ・ まずは親が本を読むなど、大人から働きかける
- ・ リビングに本棚を置くなど本を手にする習慣をつける
- ・ 言語の発達効果があるため、学校の本を借りて家で読む習慣をつけさせる
- ・ 教養の基礎や物事を考える習慣などが身につく
- ・ 文章力や想像力が身につく

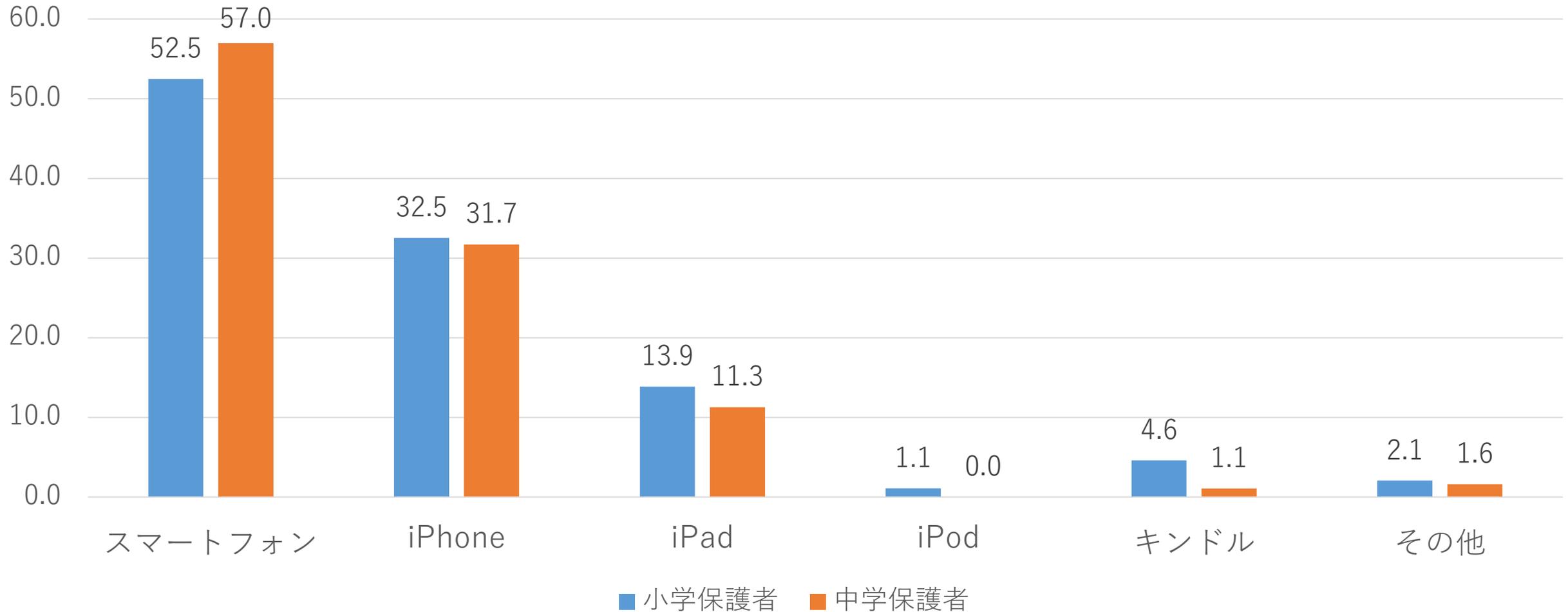
「子どもの読書活動アンケート」 電子書籍の体験の有無

問A 電子書籍を読んだことはありますか？



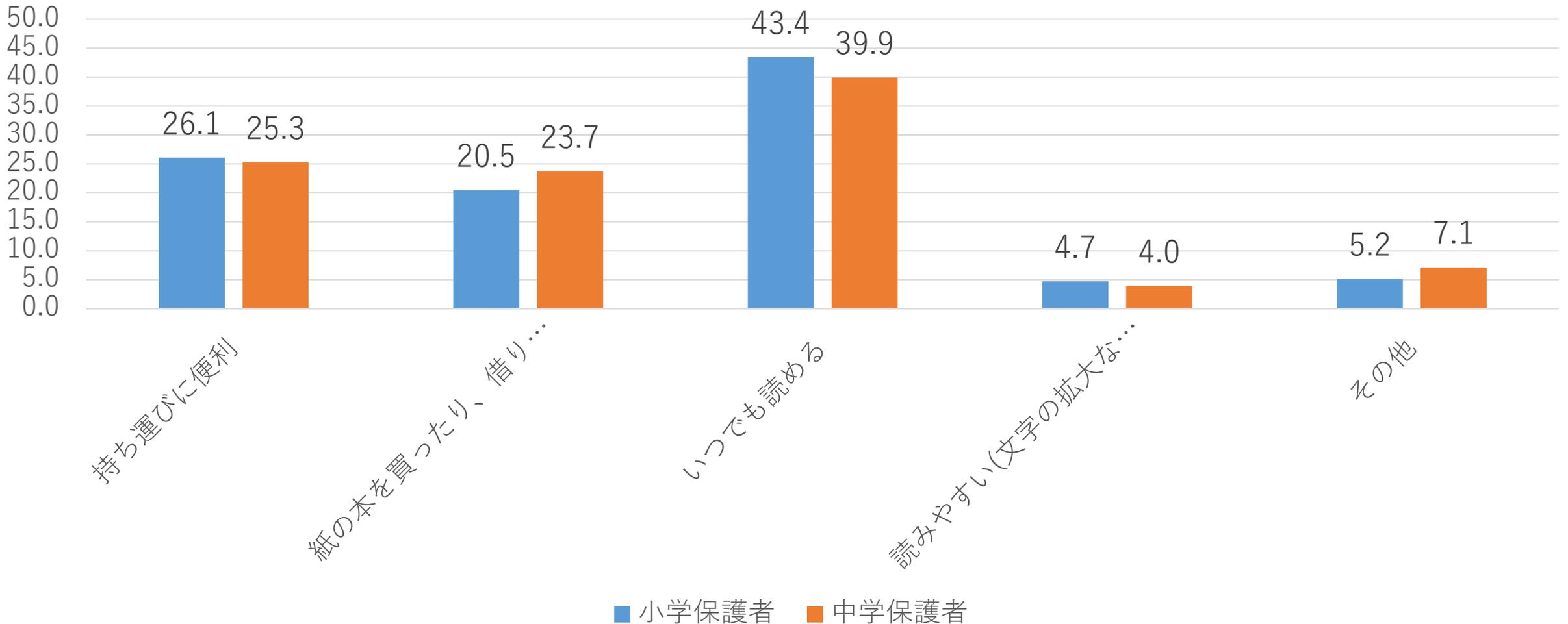
「子どもの読書活動アンケート」 電子書籍の書類

問B どの種類を利用していますか。



「子どもの読書活動アンケート」 電子書籍の印象

問C (電子書籍を) 活用してみてもうどう思いますか？





幼稚園・保育園等 アンケート調査の結果

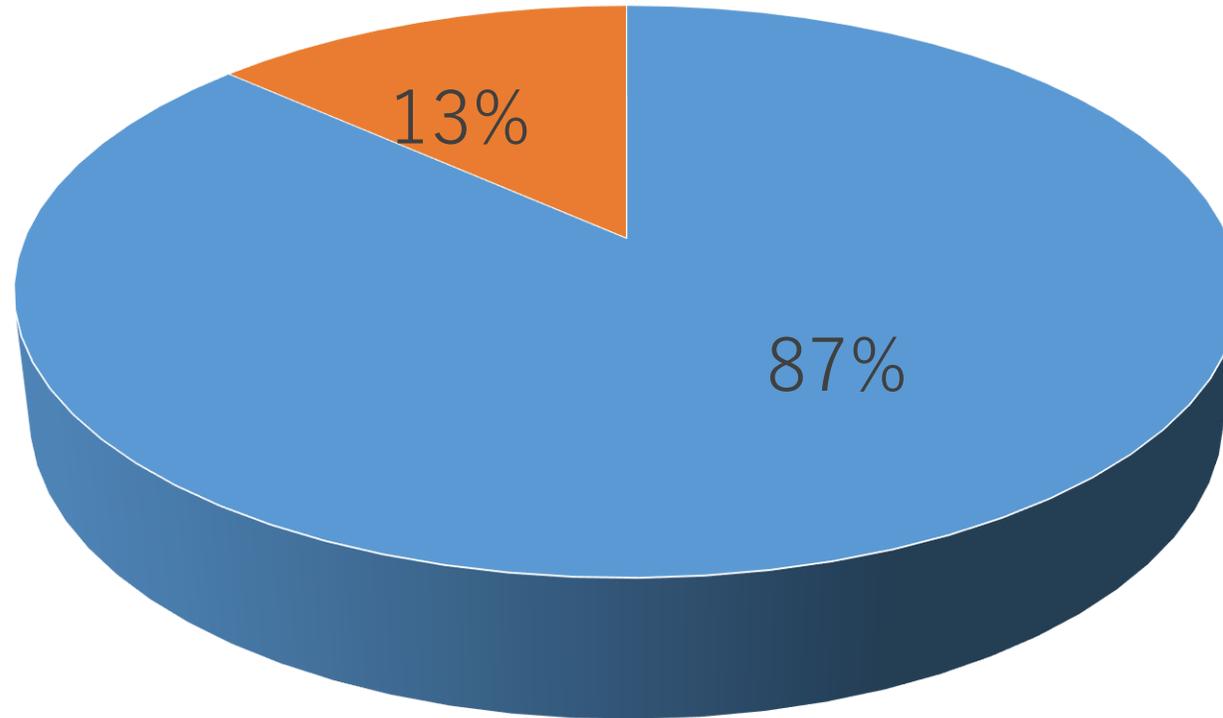
調査校として、市内全幼稚園・保育園等を対象に実施した。

(令和2年2月実施)

回答数： 15園 (94%回答)

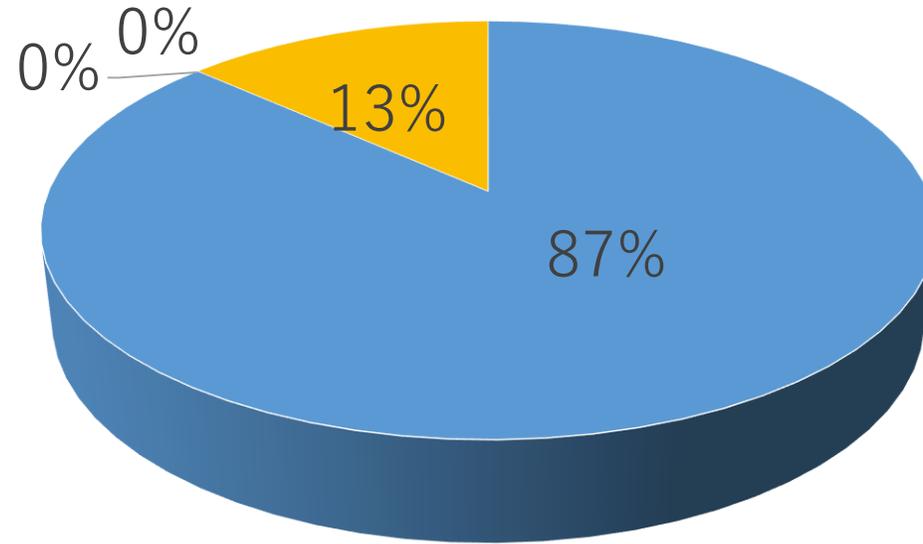
「子どもの読書活動アンケート」 読書活動への関心・意欲

問1 貴園の園児は、園内などで本を読んでいますか？



■ よく読んでいる ■ まあまあ読んでいる ■ それほど読まない ■ ほとんど読まない

問2 子どもたちの読書活動を推進するために取組を行っていますか？



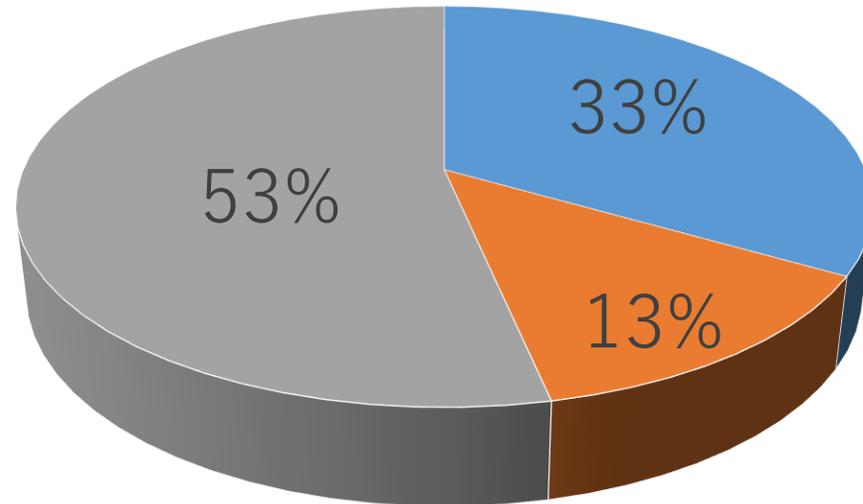
- 取組を行っている
- 今後取組を行う計画
- 取り組んでいない
- 無回答

問2 子どもたちの読書活動を推進するための具体的な取組は？
(一部抜粋)

- ・ 絵本の大切さを伝えるための絵本講習会
- ・ 保護者会文庫を設置し、絵本の貸し出し
- ・ 毎日クラスでの読み聞かせを行い、静かな時間を過ごすことを日課としている
- ・ 園文庫を設置し、週に1回自分で好きな本を見つけ貸し出し家庭に持ち帰っている。
- ・ 園だよりや懇談会で絵本の紹介
- ・ 手の届くところに絵本を置き、いつでも手に取って見れるようにしている。

「子どもの読書活動アンケート」 関係機関等との連携

問3 近隣の学校図書館や公共図書館と連携し活用するなどしていますか？

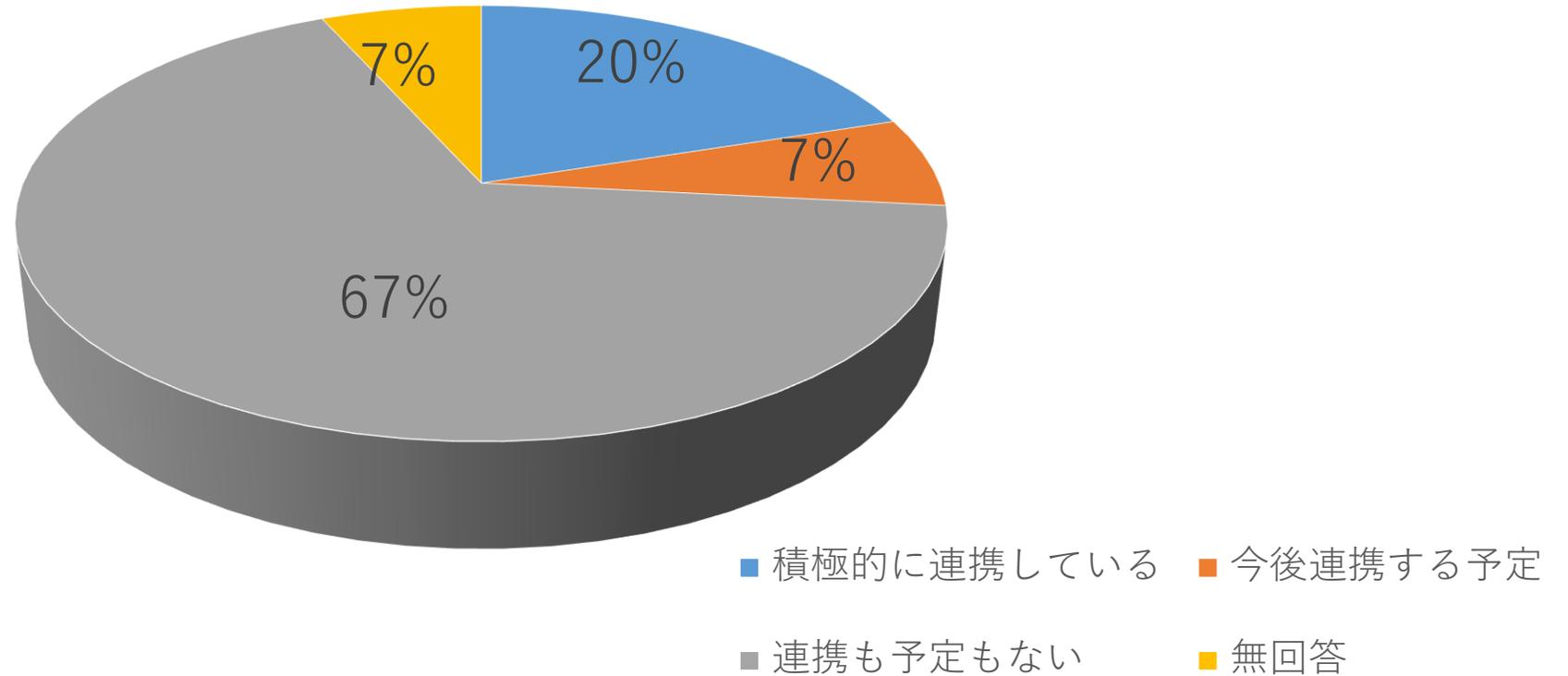


■ 活用している ■ 今は活用していないが、過去はしていた ■ 活用したことがない

※具体的連携⇒読む読むくん巡回や団体貸出など

「子どもの読書活動アンケート」 関係機関等との連携

問4 ボランティア（PTAや保護者含む）との連携は？



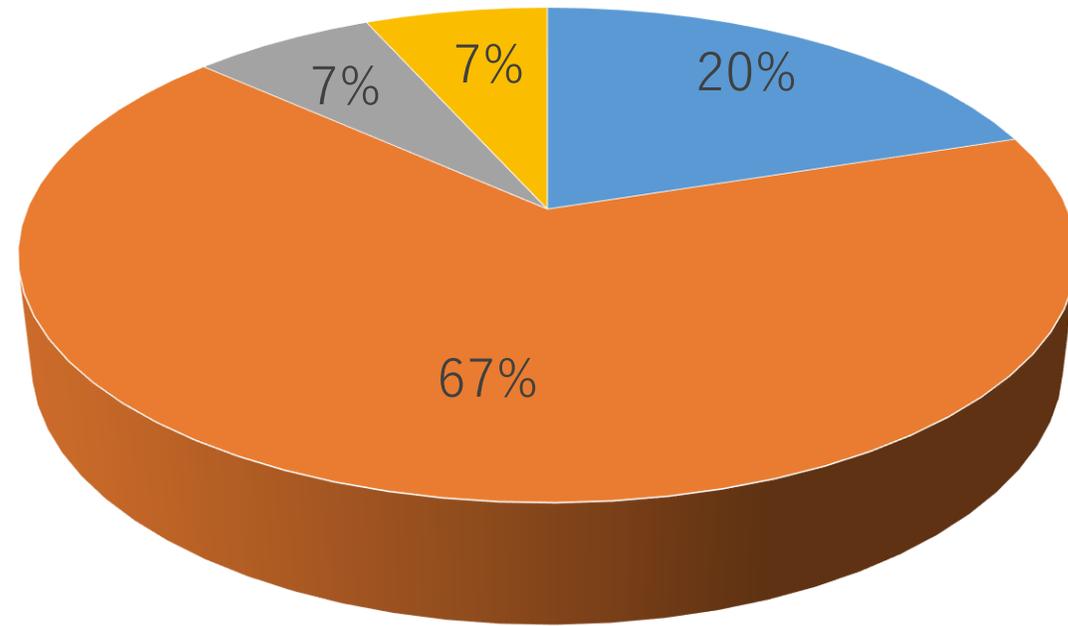
※具体的連携⇒保護者や園外のボランティアでの読み聞かせなど

問5 子どもの読書活動推進への課題や必要なことは？

- ・ 絵本を大切に扱えない実情に困っています。絵本を大切に読めるよう指導していくにはどうしたらいいのか？
- ・ 園だけでなく、保護者（家庭）にも読み聞かせの大切さを伝えていく
- ・ 園では日々絵本の読み聞かせを行っている。家庭でも（読み聞かせを）してほしいため、本の貸し出し利用を増やしている

「子どもの読書活動アンケート」 本を読む種類

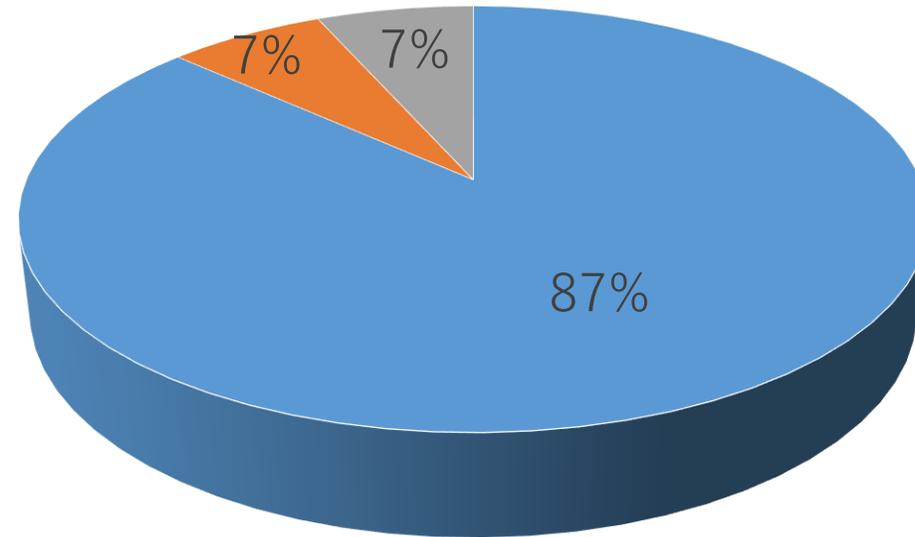
問6 子どもの読書活動推進法及び基本計画・子ども読書の日・子ども読書週間を知っていますか？



■ 知っている ■ 聞いたことはある ■ 全く知らなかった ■ 無回答

「子どもの読書活動アンケート」 読み聞かせについて

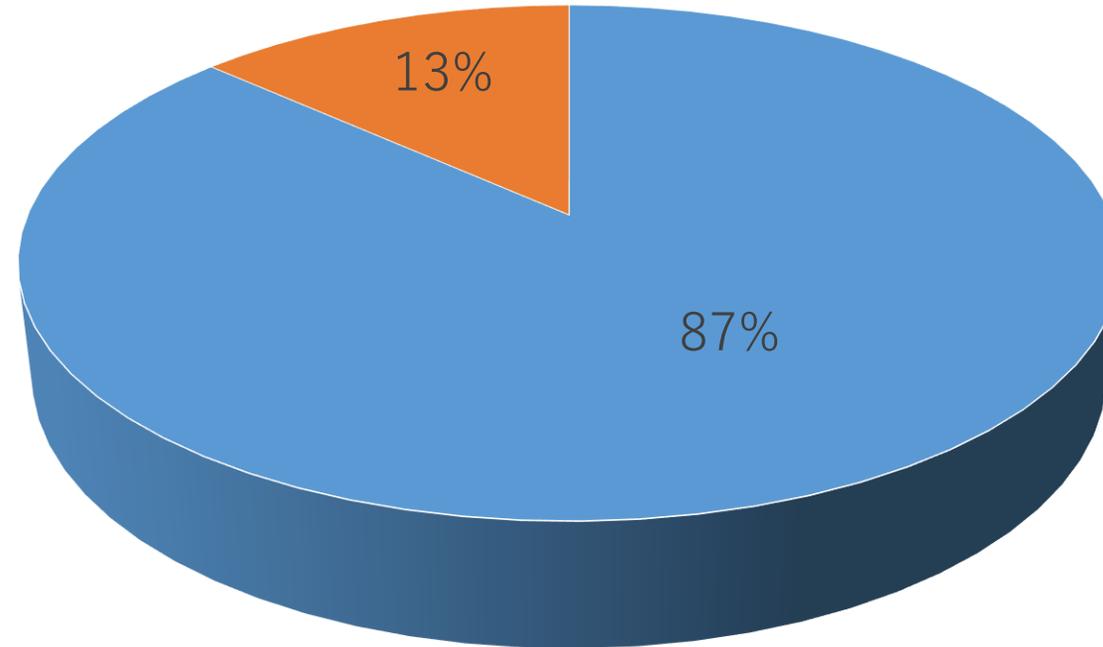
問7 育児サークルや先生による読み聞かせを行っていますか？



■ はい ■ いいえ ■ 無回答

※ 「はい」と回答した園⇒主に保育士による読み聞かせ

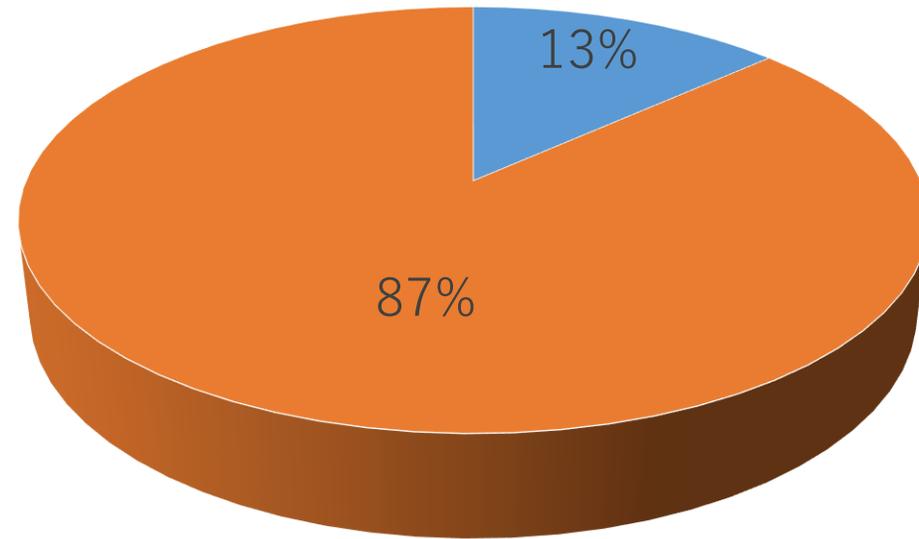
問8 図書コーナーはありますか？



■ ある ■ ない

「子どもの読書活動アンケート」 移動図書館車の利用

問9 移動図書館巡回貸出サービスなどを利用していますか？

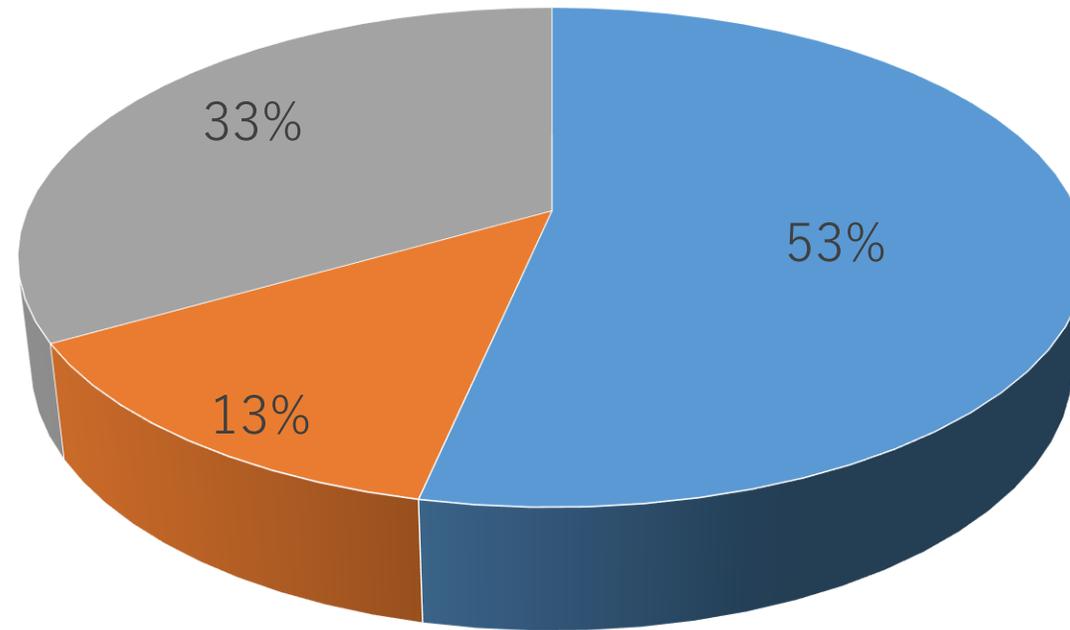


■ 利用している ■ 利用していない

※ 「利用している」と回答した園⇒清里保育園、桜山保育園

「子どもの読書活動アンケート」 読書の周知

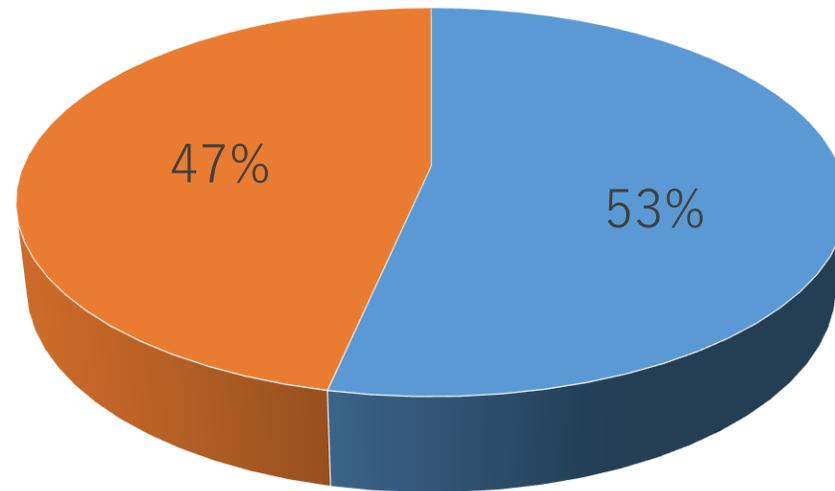
問10 子どもたちのためにブックリストや読書に関するリーフレットなど必要ですか？



■ はい ■ いいえ ■ 無回答

「子どもの読書活動アンケート」 研修等参加の有無

問11 読み聞かせや読書指導等の方法の研修や講演会に参加していますか？



■ 参加している ■ 参加していない

※ 「参加している」と回答した園⇒保育協議会等の研修

問13 (図書館・行政に対し) どのようなサービスがあればいいですか？ (自由回答)

- ・ **絵本作家さんの講演会の開催**
- ・ **図書館の本が作家順に並んでいるため、カテゴリー別に並べてほしい (季節、昔話、食など)**
- ・ **どのように読み聞かせを行ったら良いかななどの話や実技やリーフレットなどがあるといい**

第3章 現況と今後の指標

3-1 荒尾市子どもの読書に関するアンケート結果

実施内容

1. 実施日	令和2年2月		
2. 調査対象	市内小学校10校	市内中学校3校	
	市内高等学校2校	市内小中学生保護者	
3. 回答数	小中高校生	4,452名 / 4,758名	配付 (回答率 93.6%)
	小中学生保護者	1,828名 / 2,842名	配付 (回答率 64.3%)

目次

1. 小中高生アンケート結果
2. 小中学生保護者アンケート結果
3. 幼稚園・保育園アンケート結果

3-2 令和7年度末において期待される目標

※数値については、上側が平成27年度に実施した「荒尾市子どもの読書に関するアンケート」の結果(子ども…小中高の平均)、下側が令和7年度末の目標値

1. 子どもたちの読書に対する気持ち

※読書が「好き」、又は「どちらかといえば好き」と回答(小中高生の平均値)

＜前回の目標＞H28.3月末

73% → 90%

70% → 90%

平成28年3月末の目標を90%としていましたが、結果は前回の結果よりも低い70%でした。令和7年度末における目標は前回の目標と同様の数値とします。

2. 子どもたちが本を読む頻度

※1か月に「1冊以上本を読む」と回答(小中高生の平均値)

＜前回の目標＞H28.3月末

71% → 90%

71% → 90%

結果は平成28年3月末の結果と同様の71%でした。令和7年度末における目標は90%とします。

3. 子どもたちが学校の図書室に行く頻度

※学校の図書室に「ほとんど毎日」、「週に1回以上」、「月に1回以上」と回答

(小中高生の平均値)

＜前回の目標＞H28.3月末

42% → 60%

47% → 60%

平成28年3月末の目標を60%としていましたが、結果は前回の結果よりも高い47%でしたが、令和7年度末における目標も同様の数値とします。